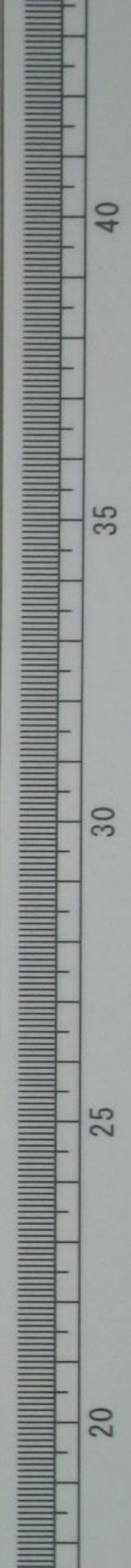




和装本
4706
3



門 40
流 4706
卷 3

明治七年三月

合衆國小史

文部省

合衆國小史卷之三



十六百三十三年
米國
グードリツチ 著

日本
桑田親五 譯

第四十一章 十三部ノ殖民其一

代議士ヲ命セズニテ租稅ヲ課ス

前章迄ハ千六百七年ゼームストウンノ殖民地
創建ヨリ、千七百六十三年、英佛殖民和親ニ至ル
迄、亞米利加殖民事蹟ノ概略ヲ、記載セリ、其後幾
クモナク、殖民等、其父母ノ國ト、緊要ナル戦争ヲ、
始メタルヲ以テ、今又之ヲ筆シテ、讀者ニ示サン

合衆國小史 卷之三

文部省

ト欲ス、

佛人及ビ土人トノ戦争ニ加リテ又獨立ノ戦争

ニ関カリシ十三部ノ殖民左ノ如ク、

ヴルジニア 千六百七年創建

ミウヨルク 千六百十三年同

マスサセツ 千六百二十年同

ニウハムプキイル 千六百二十三年同

ニウセルシー 千六百四十四年同

デレソール 千六百二十七年同

コン子クチカト 千六百三十二年同



メリランド 千六百三十四年同

ロードアイラント 千六百三十六年同

北カロライナ 千六百六十年同

南カロライナ 千六百七十年同

ペンシラヴァニア 千六百八十一年同

ゼオルジア 千七百三十二年同

現今ノメインベルモントノ兩州ハ、當時マスサ

セツ及ヒミウヨルクニ屬セリ、

此時ニ至ル迄ハ、諸殖民等互ニ區域ヲ設クル、

甚ダレカリシガ、此後ニ至テハ、相合シテ共ニ全

體ノ公益ヲ謀リ、自ラ英人或ハ殖民ト號セズシテ、米人ト稱スルナリ、
 余今獨立ノ戦争ヲ語ル前ニ、讀者ノ宜シク解知スベキ緊要ノ事件一二ヲ、擧ゲ示サザル可ラズ、
 讀者ノ知レル如ク、凡ノ政府ヲ維持スルガ為ニ、要須ナル金ハ、税法ヲ設テ、之ヲ取ルナリ、詳カニ云ヘハ、王大統領、及ビ政府諸官員ノ給料、道路ノ修繕、燈臺ノ建築、常備兵ノ設置等ノ費用ニ、充ル為ニ、諸民ヲレテ、其私有スル所ノ物品ノ多寡ニ應ジテ、税金ヲ納メシムルナリ、

又讀者、所知ル如ク、各國多ク其人民租税ノ事ヲ發言ノ權利有シ、各代議士ヲ撰テ、議院ニ出シ、税法ノ正不正ヲ論セシム、然ルニ此時英人ノ龍動ノ議院長代議士ヲ出スルヲ得テ、米人ハ之ヲ出スルヲ得ザリキ、
 後ノ數章ニ記セルガ如ク、大英國ノ政府ハ、殆シド其金ヲ盡シテ、猶自己ヲ維持スルガ為ニ、亞米利加殖民ニ、租税ヲ課シタリ、然ラバ諸殖民民亦己等ノ利不利ニ、注意セシムルカ為ニ、龍動ニ、代議士ヲ出シテ可ナリ、然ルニ之ヲ許サザルカ故

ニ、殖民等ハ其律ニ從テ、租稅ヲ納ムルヲ好マザリキ、
 看者宜シク心ニ認ムベシ、殖民等ハ、既ニ自國ノ費用ニ供スル、若干ノ重稅ヲ出スガ上ニ、又出ス
 一ヲ欲セザル金ヲ、三千里ヲ隔テタル英國ニ送テ、ソノ費用ニ供セザルヲ得ズ、コレ殖民等ノ各非理ト為ス所ニレテ、讀者モ、又忽チソノ然ル
 一ヲ領會スベシ、
 第四十一章問目、各州ノ名及ビ其創建ノ年ヲ舉ゲベ
 十三部ノ殖民ノ名及ビ其創建ノ年ヲ舉ゲベ

多シ、由今改マリ、州公如何、收稅ノ理如何、
 一、人民租稅ノ事ニ就テ、如何ナル發言ヲナス
 一、英人ハ如何、米人ハ如何、後ノ數章ニ
 其於テ何ヲ記スヤ、殖民自國ノ租稅ハ、如何
 一、第四十二章、十三部ノ殖民ニ其
 一、ヒガルエクト ○ ステンプ、エクト ○ 其他ノ
 一、稅 ○ 英國ノ兵隊ボストンニ來テ、宿營ス、
 一、千七百六十四年、英國議院ニ於テヒガル、エクト
 一、ト云ヘル律ヲ創立ス、コレ英人ノ米國ニ輸入ス
 一、ル砂糖ニ、盡ク稅ヲ課シ、殖民ヲシテ、之ヲ納メシ

ムル律ナリ、米人大ニ之ヲ憂ヒ、節儉ヲ用キテ、此少ノ砂糖ヲ消費シ、且其怨ニ酬ユルガ為ニ、英國ヨリ、輸入スル所ノ羅紗ヲ買ハズ、自國ニテ製シテ、衣服ト為シタリ、

明年、又英國ニ於テステマフ、エクトト云ヘル高名ナル律ヲ創立ス、コレ米人ヲシテ、金銀、賣買、典當、其他總テ約定ノ證券、皆必ズ印紙ヲ用キシムル律ナリ、此印紙ハ、英政府ヨリ出ス所ニシテ、其價一枚ニ付、十錢ナリキ、

是ニ由テ米人憤怒ニ堪ヘズ、彼ノ印紙、英國ヨリ

來レハ、必ズ之ヲ焚燒シ、或ハ隱匿シ、或ハ還却セリ、

其志ヲ以テ諸人ニ告テ曰ク、證券、約券ヲ書スル者ハ各其好ム所ニ從ヒ、如何ナル紙ニテモ、用キテ可ナリト、其他諸民公然ト、之ヲ會評シ、刺へ僧徒等說教ノ時、此律ヲ誹謗セリ、

コノ時ベレガミン、フランクリンハ龍動ニ在リシガ英人ニ語テ曰ク、縱ヒ米人ハ善ク道理ニ明カナリト雖モ、代議士ヲ出サズシテハ、政府ノ命ヲ奉ジ、稅ヲ納メザルナリト、是ニ由テ、英國政府

此律ヲ廢止セリ、然レモ猶米人ヲシテ、稅ヲ納メ
 シタルコトヲ忘レス、若シ適當ト思フコトアラバ、又
 之ヲ課セント欲セリ、
 斯テ千七百六十七年ニ、英國政府、遂ニ又一律ヲ
 立テ、米人ヲシテ、總テ輸入スル所ノ硝子、画料、茶
 紙ノ稅ヲ納メシム、此稅ハ、輕シト雖モ、米人其之
 ヲ取ル所以ヲ快トセズ、不正ナリト思ヘバ誰カ
 一錢ヲモ納メシヤ、
 英國政府、又其兵隊ヲ送り遣シ、其宿營、寢床、蠟燭、
 薪等ニ至ル迄、悉ク殖民ヲシテ、供給セシム、且ツ

租稅ヲ收ムル為ニ委員ヲ遣シタリ、是ニ於テ、米
 人ノ怒、更ニ甚レクマスサキキツノ集議院ハ、他
 ノ諸殖民ニ意ヲ通シ、人々其身ヲ保護スルガ為
 ニ、各カヲ戮セシコトヲ望メリ、
 後幾クモナク、英軍ニレシメント、ポストン
 都府ニ到着シ、驕横恣縱、忌憚ル所ナク、填丸ノ
 銃ニ、劔ヲ挿シ、之ヲ肩ニシテ、入府セリ、諸民ハ之
 ニ宿營ヲ與フルコトヲ欲セサレバ、獨リ總管ハ英
 王ヨリ其職ヲ任セラレシニ因テ、王ノ意ニ協ハ
 シコトヲ欲シ、府廳ヲ以テ之ニ供セリ

千七百六十九年、英國議事院ニ於テ、又新タニ律ヲ立テ曰ク、諸殖民人、叛逆ノ罪アリト、告訴セラ
 ル、者ハ、裁判ヲ受ル為ニ必ス遠ク三千里外ノ英國ニ送ラルベシト、是ニ於テ、諸殖民前ニ比スレハ、又一層ノ激怒ヲ増シ、ダールジニア、マスサナ
 セツノ集議院ニ於テ、総管ノ意ニ協ザル議ヲ立テシニ、総管乃チ其議貞ヲ退ケテ、英國ニ送遣シケルニゾ、兵端ヲ開ク時期、忽チ逼リ、
 第四十二章ノ問目
 因テ如何ナル事ヲ生

ゼレヤ、スラムズ、エクトハ、如何、因リ起リシ事ハ、如何、ベンザミン、フランクリンハ、如何、英國ノ議院ハ如何セシヤ、千七百六十七年、創立ノ律ハ、如何、兵隊ハ、如何、マスサチュセツノ集議院ハ、如何、ニレジメントハ、如何、千七百六十九年ノ律ハ如何、其結局ハ、如何、
 第四十三章 十三部ノ殖民 其三
 ホストンノ暴殺
 英國政府ハ、千七百七十年ニ於テ、既ニ画料、硝石、

紙ノ稅ヲ廢シケレバ、ボストンノ諸民ト、茲ニ宿營セル、英ノ兵隊ト情意猶相善ラス、動モスレハ鬭争ニ至ラントス、三月二日、遂ニ一個ノ兵卒、^{ナツク}絢索人ノ為ニ襲ハレ痛ク打レテ、逃去リシガ、忽チ數名ノ兵卒ヲ、援トシテ、伴ヒ来リ、絢索人、及ビ其徒ヲ、嚴ヒ、其一人ニ重創ヲ被ラセタリ、此事忽チ遍ク府内ニ聞エシカバ、府人、皆絢索人ト黨ヲ結ヒ、數日後ノ黄昏ニ至リテ、遂ニ蜂起シ、各棒ヲ携ヘテ、余等ヲシテ、惡徒ヲ驅除セシムベ

シ、彼等ハ何故ニ、茲ニ居ルヤ、余等必ス彼等ヲ驅除スヘシト、叫ビツ、^キキング街ノ方ニ進ミ行キ、鐘ヲ鳴シ、衆ヲ聚メケルニゾ、黨與益雲集セリ、斯テ遂ニ一人ノ番兵ニ逢ヒ、這廝殺スベシト叫ヒ捧石塊ヲ以テ之ヲ撃ツ、番兵ハ、他ノ兵卒ニ援ヲ乞フ、他ノ兵卒、直チニ来リ救フ、人民ハ、棒ヲ振り廻シ、或ハ雪塊ヲ抛チ、或ハ惡言ヲ吐キ遂ニ砲銃ノ前ニ突進シ、汝等能ク放發スルガラバ、放發スベシト嘲笑シ、^ハ名クスト呼ヘル黒色人、^利弗利種ニテ、^使使役セラレ、^者者、^已己ノ棒ヲ以テ兵卒

、小銃ト打テ合ヘリ、之ヲ見テ、他ノ者モ、亦打テ
 合テ、賊徒等、放銃シ得ザルヤ、足下ニ踏伏スベシ
 ト詈レリ、
 是ニ於テ、兵卒等モ、大ニ激シ、始テ放銃シテ、黒色
 人ヲ殺シ、再ヒ放銃シテ、兩人ヲ斃シ、數人ヲ傷ケ
 シカハ、令ハ騷擾益甚シク、憤激シタル男女童子、
 街路ニ充滿セリ、總管乃チ諸民ニ、吾必ス放銃シ
 タル兵卒等ヲ捕ヘテ其罪ヲ正サン、各ハ退散帰
 宅スヘシト諭シ、漸ク其言ニ従ハシムルヲ得
 タリ

斯テ英ノ兵隊ハ、府外ニ退ケラレ、其兵卒兩人、禁
 錮セラル、一揆黨ノ死スル者三人ヲハ、鐘ヲ鳴ラ
 シ禮ヲ備ヘテ之ヲ葬レ、此、此時市中、盡ク店ヲ閉
 タリ、後、此事ヲ稱シテ、ボクハ此ノ暴殺ト云リ、
 爾、第四十三章ノ開目ニ、
 何品ノ税ヲ廢セシヤ、兵隊ト、諸民トノ情態
 ハ、如何、遂ニ起リシ事ハ、如何、
 暴殺ノ始末ヲ語レ、
 其、第四十四章ノ十三部ノ殖民、
 カスビノ艦○茶ヲ水中ニ投棄○セ、ボス

トン、ポルト、ビル

其後數月ノ間ハ、大抵平穩ニ過シカモ、猶往々激怒ニ因テ、事件ヲ生セリ、千七百七十一年、ポストニニ於テ、收税ノ官負、亞米利加船一艘ヲ奪掠セシトシテ、諸民ノ為ニ捕ヘラレタリ、諸民乃チ此賊ノ脈ヲ脱シテ、其躰ニ油ヲ塗リ、鳥羽ヲ以テ裝飾シ、輜車ニ乗セテ、市中ヲ引キ廻ハセリ、後久シカラスシテ又一事件ヲ生ゼリ、亞米利加ノ船舶ヲ監察セルガスピト号スル英國ノ軍艦ロトド英領ヲシドナプロダテスニ碇泊シ

居タル時ニ、米人ノ運送船、敢テ旗ヲ下サズ、其前ヲ過テ、出帆セシカバ、彼軍艦ハ、之ヲ追ヒ来レリ、運送船ノカピテイシハ、之ヲ欺ムカント、一策ヲ運ラシ水底ノ深カテサル方ニ向テ、走レリ、軍艦ハ、運送船ヨリ大ナルヲ以テ、竟ニ淺沙ニ膠シテ、運轉スルヲ能ハザルニ至レテ、其船ヲ突入シ、プロダテンスノ人民ハ、之ヲ聞キ、軍艦及ビ積込ミタル品物ヲ、灰燼トナサント決シ、深夜大勢兵器ヲ携ヘテ、彼ノ艦ニ突入シ、其士官水夫ヲ悉ク縛シ岸上ニ送リテ、艦ヲ焚燒セリ、是ニ於テ、英國

政府ハ二千五百ドルノ賞格ヲ掲ゲテ、此暴徒ヲ
 索ムルト雖モ、之ヲ訴ヘ出ル者ハ絶エテナカリ
 ケリ。
 余今千七百七十三年ニ起リシ、著明ノ事件ヲ、語
 ラザル可ラズ、英國政府、曾テ茶稅ヲ減シ、米人モ、
 必ズ一斤ニ付、六錢ノ稅ヲバ、納ムルナラント思
 考シ、ニウヨルクモラデルモアヤトルストンボ
 ストンノ四府ニ、許多ノ茶船ヲ送レリ、
 然ルニ、ボストンノ人民ハ、船ヨリ茶ヲ揚ケシム
 ルヲ欲セズ、一夜數人土人ハ扮装ヲナシテ、彼

ノ茶船ニ乗入り、其茶箱三四百ヲ破壊シテ、水中
 ニ投シテ、皆難ナク、歸宅セリ、後ニコノ徒ヲボス
 トシ、テイ、バ、ト、テイノ^{ボストン}茶黨ト云ヘリ、
 是ニ由テ、英國政府、ボストン人ヲ罰セント決シ、
 セ、ボストン、ポルト、ピルノ^{ボストン}港禁ト号スル律ヲ
 立テ、總テ船舶ヨリ、府内ニ、物品ヲ揚クルヲ禁
 ス、ボストン人ハ、之ニ報スルカ為人、高議シテ今
 ヨリ英國トノ貿易ヲ停止セリ、
 千七百七十四年、九月、ニラデルモア府ニ於テ、十
 三部ノ殖民ノ内、十一部ノ委員會合シテ所有ス

英領事館小史 卷之三

ヘキ権理ノ公告書ヲ作り、裁判ヲ乞フ願書ト共ニ之ヲ英王ニ送レリ、亞米利加殖民ノ總會之ヲ以テ、最モ初ノモノトス、

第四十四章ノ問目

暴殺後ノ事情ハ、如何、
收税ノ官負ハ、如何處
セラレシヤ、
ガスピル艦ノ始末ヲ語レ、
ホ
ストン、テイ、パイテイノ談話ヲナセ、
ゼ、ボス
トンボルト、ビルハ、如何、
最初ノ總會ハ、如何、

第四十五章 十三部ノ殖民 其五

ボストンノ童子及ビゼ子ラーブルグトビ

當時ノ童子等ハ、自然其父ノ風ヲ受テ、獨立ノ志ヲ抱ケリ、余之ヲ證スルガ為ニ、茲ニ一ノ奇事ヲ語ラザル可ラズ、現今ノ如ク、ボストン府内ニハ、景色佳麗ノ廣園アリテ、其中ニ小池アリ、冬日ニハ童子等、氷沓ヲ履キ来テ、其氷面ニ上リ、或ハ雪ニテ、屋ヲ作り、遊ヒ戯ル、常ナリ、然ルニ或ル日英ノ兵卒等、茲ニ来リ戯レテ、彼雪屋ヲ破碎セリ、童子等、乃チ再ヒ之ヲ作りレニ、又破壊セシカハ、童子等怒テ、之ヲカピテイニ訴ス、然レルカピテイニハ、嘲笑シテ、其言ヲ取上ル

英領事館小史 卷之三 十三 支那省

景況ニ非ス、兵卒等モ、亦暴横前日ヨリ甚タレカリキ、

是ニ於テ、童子ノ稍長シタル者數人、相伴ヒテ主將タル、ザ子テリルゲーシノ營ニ至リ、其中ノ最モ長シタル者、ゲーシニ謂テ曰ク、余等ハ、君カ余等ノ心ヲ満足セシムルヲ乞シガ為、来レルナリト、ゲーシ曰ク、何ゾヤ汝等ハ、父ニ謀叛ヲ教ヘラレテ、之ヲ示サンガ為、ニ来レルヤト、童子答テ曰ク、否ナ、余等ハ、人ノ指令ヲ受テ、来レルニハ非ス、余等曾テ君ノ兵卒ニ、妨害ヲ為サザルニ、君ノ

兵卒、却テ余等ノ雪屋ヲ踏ミ崩シ、且ク氷面ヲ撲破セリ、因テ余等カピテイシニ愁訴セシニ、防キ得ルナラバ、防グベシト云フテ、輕視スルノミ昨日ニ至リテ、妨害ヲ被ルテ、既ニ三度ナリ、更ニ堪忍スルヲ得ズト、是ニ於テゲーシハ童子ノ意ニ感シ、答テ曰ク、汝等宜ク去ルベシ、諸モ勇敢ナル者共カテ、若シ余ガ兵卒、再ビ汝等ヲ妨害セバ、必ス罰ヲ加フベシト、後ゲーシ、其士官ニ語テ曰ク、此國ニ於テハ、真ノ童子ト雖モ、猶獨立自主ノ志ヲ存スルナリト、

トス、
 千七百七十五年四月十八日夜、
 米人所有ノ火藥彈丸ヲ奪ハントテ、密ニ兵八
 百ヲ發シテ、ボストンヲ距ル、二十里ナルレキ
 シントン及ビコンコルドノ兩村ニ遣ス、其軍朝
 第五時ニ、レキシントンニ到リテ見ルハ、米人ハ
 既ニ其舉動ヲ探知シ、一隊ノ兵、戦備ヲ為シテ、其
 村ノ會議所ニ屯聚セリ、
 英ノ士官マダール、ピトケールン、
 穀ヲ揚ケ、賊徒退
 クマレ、其兵器ヲ撤テ、退クマレト云フ、然ルニ猶

退カザルヲ以テ、兵卒ニ令シテ、發銃セシメ、愛國
 ノ米民四名ヲ斃ス、米軍衆寡敵セザルヲ料テ、
 發銃シテ、退キケルハ、英軍吶喊發銃シテ、追
 ヒ来リ、八人ヲ斃シ、數人ヲ傷ケテ、コンコルドニ
 進ミ、貯蓄セル彈藥ヲ、井中ニ投シ、大砲二門ヲ毀
 テ、火藥箱ヲ破壊セリ、
 其際ニコンコルトヨリ、民兵群起シテ、烈シク戦
 ヒケレハ、英軍終ニ支ヘ、兼テ、ボストンニ還ント
 欲ス、近傍ノ人民、コノ騒動ヲ聞キ、農工匠、鍛冶工
 等、コンコルドニ雲集セリ、ソノ携フル所ノ小銃

ハ甚ダ乏シク、且ツ鏽古ニシテ僅カニ、鵠、粟鼠ノ類ヲ射ルニ足ルモノモアリケレバ、人民殊ニ能ク之ヲ用ナテ、其効ヲ奏セリ、



レキシントンノ戦争

英軍ノ初メコンコルドニ進ミ来リシ時ハ、途中無難ナリシガ、退歸ニ於テハ、甚ダ艱苦セリ、米人家屋、樹林、巖礁、石壁等ノ陰ニ潜リ窺ヒテ、痛ク發銃セルガ故ニ

此村コソコソトトボス

トノ間ニ到リシ所、他英兵九百来リ會シケニ在リ、
レ時止リ防ヲ能ハズ、直チニボストンニ退ケリ、日暮歸着シ、其兵ヲ検査スレバ、死者六十五人、傷者百八十人、擄者二十一人、米人ノ死傷成之ニ及レテ甚ダ寡ナカリシト云、
此レキシントンノ戦争、四方ニ聞エケレバ、人民悉ク奮起シ、英人ヲ境外ニ攘除セント決シテ、諸砦及ビ火藥庫ヲ奪ヒ、死ヲ以テ戰ハシメテ、期以一月ヲ待ズシテ、二万ノ兵、ボストン府ノ周圍ニ陣營ヲ張ル事至レリ、

第四十六章ノ問目

ゼ子ラールゲージノ、所為ハ如何、人民ハ如何
 何レテ、其怨ニ酬ヒシヤ、此怨隙ノ結局ハ如何、
 何レキレントンニ於テ、何事ヲ生ゼシヤ、
 コンコルドニ於テハ、如何、田舎人ハ如何、
 英軍敗走ノ始末ヲ語レ、死傷ハ如何、諸民
 ノ決定ハ如何、諸民ハ如何ナル事ヲ為セシ
 ヤ、ボストン周圍ハ陳營ハ如何、
 第四十七章 獨立戦争ニ其

ゼ子ラールゲージハ、英軍新タニ到着セルニ因
 テ、頗ル勢カヲ得シカハ、米人ニ告示シテ、曰ク、賊
 徒等、皆兵器ヲ投テ、米リ降ルベシ、然ラバ、其罪ヲ
 赦サン、然ルニ、米人之ニ答ヘズ、是ニ於テ、ゲー
 ジハ戦鬪ノ準備ヲナセリ、米將等ハ、早ク方畧ヲ
 運ラシ、七月十六日、コロ子ルフレスコトヲ將ト
 シテ、一千ノ兵ヲ、チャールストンニ遣シ、其地ノ小
 山ヲ、據守セシメタリ、
 此山ハ、バンクル、ヒルト称シテ、チャールス河ヲ帶
 ビ、ボストン府ニ臨メリ、米ノ兵卒等、此處ニテ、終

夜勉勵シテ、日出ニ至ル迄ニ堤ヲ築ケリ、其長サ百三十尺、其高サ四尺、其後ニ居テ戦ヘバ、危キヲナシ、總テ此類ノ堤ヲ名ケテ、堡障、又ハ胸壁ト云フ、
ポストンニ陣シタル英軍ハ、天明ニ至リ、始テ米軍ノ舉動ヲ見テ、船砲臺及ビゴブスビルノ高地ヨリ、河水ヲ越テ、大砲ヲ注射シケレド、米軍ハ之ニ怖レズ、午時ニ至ル迄、只管胸壁ヲ築キテ、益幅員ヲ廣メ、僅カニ一人ヲ喪フノミ、英將ゲロジ之ヲ見テ、砲戦ニテハ、功ヲ奏レ難シトテ、午時比

セ子ラールホウニ、精兵三千ヲ授ケ、兵器彈藥ヲ充分ニ給付シテ、進撃セシム、ホウガ兵ハヤトルス河ヲ渡ル、午後三時、彼小山ニ攻寄タリ、山上ノ米軍ハ、僅カ千五百ニシテ、劔銃ヲ持スル者甚ダ少シ、其主將ハ、セ子ラールポトノヒト云老人ナリ、此人性質木訥嚴格ニシテ、初メレキシントンノ戦争ノキ、牛ヲ牧シテ、野ニ在シガ之ヲ聞テ、志ヲ起シ、余モ國ノ為ニ戦フ可シトテ、忽チ牛ヲ捨テ、趨リ往キタリ、兵卒等之ヲ称シテ、ポト翁ト云ヘリ、

命泉國小史 卷之三 六

會... 卷之三

...

英軍進撃ニ臨テ、ギールストンニ放火セリ、其家屋ハ木材ニシテ、シカモ、烈風吹起リシ故ニ、火勢忽チ熾ニナリテ、炎燄天ヲ蔽ヘリ、此時諸民ハ兩國ノ勝敗、此一舉ニ在リト思ヒ、戦争ノ結局ヲ知ラント欲シ、周邊ノ諸丘、或ハボストンノ塔臺等ニ上リ、屏息シテ之ヲ注視セリ、英軍ノ既ニ来リ攻ムルニ方テ米將ズトナハ令ヲ下シテ曰ク、汝等漫ニ發銃スルヲ勿レ、敵眼ノ白キヲ見得ルニ及ヒテ、初テ發スヘシト、我兵此令ヲ守リ、英軍ノ五十尺距離ノ地ニ進ミ来リシ

ヲ見定テ全隊一齊、點放セシカバ、其響ハ天地ニ轟キ、彈丸雨ノ如ク迸飛レテ、英軍ハ死傷數知レズ、死傷ヲ免レタル者ハ、支ヘ得ズレテ退リ、其將士ハ頻ニ之ヲ勵マシテ、再々返リ戦ヒシカバ、士官盡ク死傷レテ、遂ニ敗軍トナレリ、英軍ノ本營ニテハ、コノ危急ヲ見テ、新タニ援兵ヲ出セリ、今ハ米軍、彈藥モ竭ケレバ、銃ヲ逆ニシ、棒ノ如クニ、用キテ、接戦ヲナシ、竟ニ西方ニ退陣セシテ、英軍モ、尾撃スル勢カクシテ、引揚ケタリ、此戦ノ勝敗、判然タラズト雖モ、英軍ノ

合衆國小史 卷之三 十九 大都會

死傷ハ、殆ンド一千ニシテ、米軍ノ死傷ハ其半數ニ滿ザレバ、米軍ノ勝利ト云フテ可ナリ、又米軍ハ有名ノ、ゼ子ラール、ウルレン戦死ス、又英軍ハ、レキシントンノ退軍ニ殿タリシ、マジョルヒトケイルン陳込セリ、

第四十七章ノ問目

ゼ子ラールゲージノ告示ハ、如何、米人コノ告示ヲ諾セシヤ、コロ子ルプレスヨトハ何故ニ遣レシヤ、バンクル、ヒルハ、如何、夜中何ヲナセシヤ、英軍ハ何ヲ初メシヤ、ゲイ

シジノ兵隊ヲ遣セシコノ兵隊ノ所為ハ、如何、山上ノ米軍ハ、如何、ゼ子ラールポトナムハ、如何ナル人ゾヤ、放火ハ、如何、傍觀スル諸民ハ、如何、バンクル、ヒルノ戦争ノ始末ヲ語レ、死傷ハ、如何、戦死セル士官ハ、誰ゾヤ、

第四十八章 獨立戦争其三

米國第二ノ總會○ワシントン總都督ニ
撰舉セララル、

バンクル、ヒルノ戦争ノ後、二週間ヲ経テ、ワシントン

トシ、米軍總都督ノ職ヲ以テ、ボストンノ近傍、ケ
ムブリッドニ到着セリ、コレヲラデルモア府ニ集
合ナセシメ、第二ノ總會ニテ、選舉セシメ所ナリ、マス
サヒモツ州ノ委員ノ一人、デボンアダム、此決議ヲ
告示シケルガ、ワレントンノ名ヲ記セズシテ、只
其性行ヲ瞭然ト論セシメ、ミナリシニ、誰モ其意
ヲ誤解スル者ハ無カリキ、故ニワレントンハ、直
チニ其室ヲ退テ、職ニ就キタリ、
此時總都督ノ月給ハ、五百ドルナリ、ワレントン
之ヲ辞シテ曰ク、余ハ自ラ生計ヲ營ミ、其供給

ヲ辨ズベシ、縦ヒ之ヲ受クトモ、盡クハ、受ク可ラ
ズ、但余カ求ムル所ヲ以テ、足レリトス、又十二
人ハゼ子テ、トルヲ撰ビ命シテ、ワレントンニ附
属セシメタリ、
此總會ニ於テ、又マスサヒモツ州ノ委員ノ一、
ハ、ヌコック、明證ヲ舉テ曰ク、レキシントンノ戦ニ、
最初ニ發銃セシハ、英人ナリト、是ニ於テ、議負等、
愈諸殖民ヲ鼓舞シテ、英國ニ抗敵セント、決議シ
テ、二万ノ兵ヲ募リ、三百万ドルノ軍費ヲ、諸民ニ
課スルヲ發言セリ、

英人ノ史 卷之三 三十一

第四十八章ノ問目

總都督ニ任セラレシ者ハ誰ゾヤ、選舉セシ者ハ、何レノ徒ナルヤ、告示セシ人ハ誰ニシテ、如何ナセシヤ、ワレントンハ如何シテ、之ヲ受ケレヤ、月給ハ、如何、其附屬ノ武官ハ、如何、ギンハヌクハ、何事ヲ證セシヤ、總會ノ決議ハ、如何、

第四十九章 獨立戰爭其

英王ヘツチ邦ノ兵卒ヲ備ス、○英軍ボストン府ヲ退去ス、

英國政府、米ト兵ヲ構フルニ及テ、充分ニ國兵ヲ徵募シ得ザルヲ以テ、日耳曼國ヘツチノ君ト約シ、一卒三十六弗ノ價ヲ以テ六十一万二千弗ドルヲ拂ヒ、其兵卒一万七千ヲ備フテ、米國ニ送レリ、千七百七十五年ノ冬、ワレントンハ、火藥缺乏ニ因テ敵ヲ撃ツコトヲ得ズシテ、空シクカムブリッジニ屯セシガ、三月ニ至テ、ホストン府ニ宿陣セル、英軍ヲ攘除セント決議シテ、方略ヲ定メ、先ヅドルチェストルノ諸小山ヲ取テ、之ニ據ベシトテ、敵兵ヲ欺ムカン為ニ、相對スル所ノ丘ヲシヨリ、ボ

ストーン府ニ向テ、烈シク發砲シ英軍ヲレテ、其力
 又、此處ニノミ傾ケシメ、三月四日夜、密ニ二千ノ
 兵ヲ遣シテ難ナク、彼諸山ヲ取リタリ、
 兵卒等ハ凍リタル地上ニ於テ、終夜勞作シ、天明
 ニ至ル迄ニ、好堡ヲ成就シタリ、此地ハボストーン
 府ニ臨ミ、敵ニ發砲スルヲ甚ダ便ニシテ、絶テ其
 報砲ヲ受ザリケリ、
 ゼ子ラールゲージニ代リタル、英將ホウハ彼ノ
 山上ノ米軍ヲ攘除スルカ、將々我兵此府ヲ退去
 スルカ、結局此ニ出スト思ヒケレバ、二千ノ兵

ヲ小船ニ乗セテ、来リ攻ム時ニ烈風起リ、之カ為
 ニ、上陸ヲ妨ゲラレテ進撃スルヲ得ズ、徒ラニ
 時間ヲ費ヒ、遂ニボストーン府ヲ保ツヲ得ズレ
 テ、其兵盡ク、軍艦ニ乗リ、出帆シテ、復々還リ来ラ
 ズ、
 英人出テ米人入リケレバ、ボストーン府ノ人民、皆
 歡迎セザルハ無シ、是ヨリ前、十六月間、英國ノ兵
 ニ害セラレ、其寺院ハ、陣營トセラレ、時ニハ毀テ
 薪トナサル、アリ、其民屋ハ、衣服器財ヲ抄掠セ
 ラレ、府民食物ニ乏シク、馬肉ヲ悦ヒ食フニ至レ

リ、
 又ボストン府民ノ中ニ、勤王家ト称スル者、千五百有餘アリ、殖民ニハ、英王ニ抗敵スル權利無レト云説ヲ唱テ、英軍ニ左袒シ、ソノ退去ノ氏、共ニ其軍艦ニ乗テ、脱走セリ、之ニ反シテ、レキシント
 ンノ戦争ノ後ニ遁逃セシ、二三千ノ府民ハ、令ワレントニノ兵ト共ニ歸住セリ、
 第四十九章ノ問目
 傭兵ハ如何、其價幾許ゾヤ、冬月間ワレントンハ、如何、ソノ決定ハ、如何、方略ハ、如何

如何シテ之ヲ行ヒシヤ、兵卒ハ、何ヲ建築セシヤ、英將ハ、如何ナル事ヲ行ヒシヤ、其結局ハ如何、英軍ノ退去ハ如何、府人ノ情態ハ如何、勤王家ハ如何、其歸府セシ者ハ、何人ゾヤ
 第五十章 獨立戦争 其五
 サルリバン島ノ戦争
 前章ニ記レタル、英國ノ軍艦隊十七艘ハ、陸軍二千八百ヲ乗セテ、南カロライナ州ノチャールストン府ニ向テ進ミ、其港口ノサルリバン砦 府ヨリ十里前

ニ在ヨリ、三里ノ隔テ、投錨セリ、
此砦ノ守備ハ、六十門ノ大砲、四百人ノ士卒ノミ、
六月二十八日、戦ヲ開キ、殆ンド十時間、全港恰モ
火炎ノ如シ、船隊ハ、其側面ヨリ、震懾ス可ク、彈丸
ヲ砦中ニ注射シ、砦中ヨリハ、六十ノ銃煩ヲ以テ、
之ニ應セリ、

此時砦上ノ旗竿、砲丸ノ為ニ折ラレテ、濱上ニ墜
シニ、軍吏ゼスベル之ヲ見テ、忽チ躍リ下テ、飛丸
ヲ冒シ、竿ヲ拾ヒテ、再ビ元ノ地位ニ建タリ、ゼス
ベルハ、此勇功ノ賞トシテ、一劔ヲ與ヘラレケル

トゾ、
其夜第十時ニ及ビテ、英艦ハ、遂ニ擊碎セラレテ、
戦フヲ能ハザルニ至リ、其死傷二百餘人、米軍
ノ死者僅カ二十人、傷者二十二人ナリ、獨立ノ戦
争中、此サレリバニ島ノ防禦ニ勝レテ、猛烈トル
者ハ無キニ似タリ、後來此時ノ米軍ノ主將モ、
ルトライノ功名ヲ表センガ為ニ、其名ヲ取テ、此
砦ヲ、モールドライト名ケタリ、
第五十章ノ題目、
英國ノ軍艦隊、何レノ地ニ向テ進ミシヤ、艦

台衆國小史 卷之三

數及ビ其陸軍ノ人負ハ如何、若ノ守備ハ如何、戦争ハ如何、軍吏セスベルノ勇功ヲ語レ、戦争ノ結末ハ如何、此防禦ヲ他ノ戦争ニ比シテ如何、モートルトライハ如何、

第五十一章 獨立戦争其六

獨立ノ公告

同年五月總會スラテルニア府ニ集リテ、ボストン人ジシハマヨクヲ推舉シテ其會頭トナス、此時總會ハ十三州ヨリ出ス所ノ委員ヲ以テ成ルコレ即チ令ノ規律整正ナル合衆政府ナリ、

此時當テ十三州ノ殖民各自獨立ノ説ヲ唱ハザル者無ク、其他ノ事ヲバ心ニ考ヘ、口ニ出ス、甚ダ稀ニルテ、大皆云ク、此ノ如ク遠隔ノ地ニ居テ我幸福ニ注意セザル王ニ、服從シ居テハ、極メテ不便ナリト、ソノ志ヲ背畔ニ決セリ、
總會ニ出頭セシ、ダールジニア州ノ委員リチャルトリート云者、第一ニ、此趣意ヲ主張シ、快辯ヲ以テ、一説ヲ述テ曰ク、殖民ハ、自主自由ノ權ヲ有スルナリ、宜シク自主自由ニスベキナリト、後數週日ヲ経テ、更ニ論辯シ、七月二日、總會、遂ニ五名ノ官

台衆國小史 卷之三 二六

吏ヲシテ、獨立ノ檄文ヲ作ラシメ、忽チ之ヲ播布
セリ、實ニ千七百七十六年七月四日ナリ、
此叛逆ノ檄文ニハ會頭ヨリ以下全頁
悉ク連署セリ、英國政府ヨリ、之ヲ目スレバ、實ニ
叛逆ナルガ故ニ、連署スル者ハ皆死罪ヲ犯スナ
リ、然レモ各自奮テ、名ヲ記シ、印ヲ押シ、一人モ畏
懼セシ者ハアラザリキ、
各部ノ民、此公告ヲ聞キ、喜悅ニ堪スレテ、巷路ニ
出、列ヲ為シ、或ハ礮ヲ放チ、或ハ鐘ヲ鳴ラシ、或ハ
聚リ語リテ、大ニ祝賀セリ、抑モ既ニ彼虐人英王ヲ云

ト、兵ヲ構テ、此上ニ持テ、戰ハザルニ得ガ
ル、諸民ノ知ル所ナリ、斯ク暴戾惡ム可キ者
ノ束縛ヲ脱スルヲ以テ、欣然トシテ喜バザル者
ハ無リナリ、
合衆國ニ於テハ、毎年七月四日、大祭ヲ行ヒ、男子
ハ、祝砲ヲ放チ、幼兒ハ、火矢ヲ射ル、其故如何ナル
ヤ、余今之ヲ語ラン、コレ此日ヨリ、初テ獨立シ、
後英王ノ管轄ヲ受ケズレテ、自ラ政府ヲ立ルニ
至レバナリ、
吾等ノ祖先ハ、後來如何ナル大功成就スルヤ、未

英王ノ...

タ知ル可ラザル時ニ於テモ、七月四日ニハ、必ズ
大ニ祝賀セリ、是ヲ以テ、之ヲ觀レハ、祖先カヲ盡
シ自ラ其福報ヲ享ケズ、之ヲ其子孫ニ賜シテ、我
等坐ナガラ、此自由ノ賜ヲ蒙レリ、此日ヲ祝賀セ
ズシテ、可ナラニヤ、

第五十一章ノ問目

總會ハ如何、諸民ノ相語リシ事ハ如何、其
決定ハ如何、リタルドリハ如何ナル説ヲ
主張セシヤ、七月四日ノ事ハ如何、連署セ
シ者ハ誰ゾ、其連署ノ罪ハ如何、連署セシ

時ノ情狀ハ如何、國民此公告ヲ聞テ如何セ
シヤ、何故ニ七月四日ヲ祝スルヤ、祖先ヨ
リ今ニ至ル迄、此日ヲ祝スル所以ハ如何、

第五十二章 獨立戦争其

英軍ニウヨルク府ニ来リ屯ス、○ロング
アイランド及ビウイトプレインスノ戦
争

英ノ船隊サルリバン島ヨリ逃レテ、又ニウヨル
ク府ノ近傍ステイツン島ニ據ル、此島ニハ、本國
ノ陸軍モ、次第ニ来リ會シテ、勢ヤ、振ヘリ、ワシ

谷津野川

シトハ、ボストン府ニ居テ、之ヲ聞キ、單騎疾馳
シテ、ミウヨルク府ニ至ル、其兵モ、又速カニ来リ
集レリ、

八月二十二日、一万五千ノ米軍、ロングアイラニ
ドノブルウクリンニ陣シテ、英軍ノステイツ
ン島ヨリ、渡リ来ルヲ待ツ、二十七日、英軍来リ攻
ム、米軍之ト戦テ敗レ、多ク兵ヲ喪ヘリ、コノ敗軍
ノ原由多シ、其兵數、敵ノ半ニ過ギズ、兵卒多クハ、
始テ戦地ヲ踏ミ、殊ニ其將ポットナムノ、地理ニ暗
カリシ等ナリ、斯テ三十日朝、ロンドンニハ、勢ヒ

駐ル可テザルヲ見テ、全軍ヲ率テ、ミウヨルクニ
退ケリ、
後十四日ヲ経テ、又北十五里キングスブルグニ
退キシカバ、英軍遂ニ、ミウヨルク府ヲ取テ、其本
營トナシ、直ニ兵ヲ進メテ、大ニ尾撃セリ、護國ノ
徒、米兵ヲ屢返リ戦ヒ、カヲ盡シケレバ、毎ニ敗走
シテ、困苦ヲ極メ、實ニ慙惻スベキ景況ナリシト
ズ、
ワシントンハ、十月ノ末ニ、又多イトプレイン
ヨルク府ヨリ、三ニ於テ戦ヒ、始メハ、殺傷相当リ
十里北ニ在リ、

合衆國小史

卷之三

三九

英軍

シカモ、遂ニ支へ難久、北ニ向テ奔リ、ハッゲン河ヲ
越テ、ユウゼルシ州ノ、リト砦ノ近傍ニ陣セリ、
此河ノ東岸ニ、ワシントント称スル砦アリ、英軍
之ヲ襲撃シテ、殆ント三千ノ守兵ヲ降シ、尋テリ
ト砦ニ来リ攻ム、令ハ米軍四千人ニ減シ、ユウゼ
ルシト州ヨリ、スラデルスア府ニ向テ退ケリ、
敵ハ益疾ク追ヒ来ルニゾ、米軍過ル所ノ諸橋ヲ
バ、悉ク破壊シテ、走リケレモ、之ヲ顧レハ、敵又橋
ヲ架シテ、尾撃ス、兵ニ斃ル者ハ、置テ論ゼズ、病
ヲ罹リ死スル者モ、甚タ多ク、トレシトトニ達セ

シ時ハ、其軍僅カニ、三千ヲ數フルノニ、
事情窘蹙、既ニ此ノ如ク、兵卒等大ニ失望シテ、勇
氣モ撓ミケレモ、獨リワシントトハ、神色自若ト
シテ、兵卒等ヲ勵マシテ曰ク、理直ハ、我ニ在リ、神
人何ゾ汝等ヲ投ジテ敵手ニ委ヌルコアラシヤ
ト、尋テデレワール河ヲ越テ、ペニンストラダニア
州ニ到リシニ、三千ノ新兵、来リ會セリ、其際ニ英
軍ハ、トレントンニ入テ、營ヲ下セリ
第五十二章ノ問目
英ノ船隊ハ、如何、其陸軍ハ、如何、ワシント

日本國小史 卷之三 三

合衆國小史 卷之三

ンハ、如何セシヤ、八月二十二日、及ビ二十七
日ノ事ハ、如何、米軍ハ何故ニ、敗レシヤ、何
レノ地ニ、退キシヤ、キングスブルグデニ於テ
如何、英軍ハ、如何、米軍ノ情態ハ、如何、多
イトプレインノ戦ハ、如何、後ニ米軍何レノ
地ニ陣セシヤ、ワシントン砦、及ビリッ砦ノ
襲撃ハ、如何、尾撃ハ、如何、ワシントンノ兵
卒等ヲ勵マセシ事ハ、如何、ワシントン、デレ
ワール河ヲ越タル後、何事ニ逢ヒシヤ、英軍
ハ、何レノ地ニ入りシヤ、

第五十三章 獨立戦争其

ワシントンノ戦 ○ フリンセントンノ戦 ○
一月一日既ニ近ク、ワシントンノ久シク、訓練レ
タル兵卒等、皆期年勤勞シ、正ニ暇ヲ告テ、故郷ニ
歸ル可キ時至レリ、是ニ於テワシントンハ、直チ
ニ敵ヲ攻撃セント欲シ、令ヲ下シテ、全軍ヲ三隊
ニ分チ、進テ、再ビデレワール河ヲ越ユ、時ニ河水
盡ク凍リ、之ヲ越ユルヲ、甚ダ難ク、許多ノ人命ヲ
喪テ、前岸ニ達スルヲ能ハズ、只ワシントンニカ帥

合衆國小史 卷之三

三二

ヒタル分隊ノミ之ヲ越テニウセルレ州ニ至
ルヲ得タリ、此兵直チニ、英軍ノ分隊日耳曼ノ
兵ヲ襲撃セリ

日耳曼人ハ勇ヲ奮テ、抵戦スルト雖モワレント
シハ竟ニ之ヲ破テ、兵一千ヲ降シ、大砲數門ヲ奪
ヘリ、此捷々、六月前ノ勝^{サルリ}戦^{云フ}島ニ比スレ
バ甚々顯赫ナラザルニ似タレ、即時士卒ノ精
神ヲ勵マシ、且ツ諸民ヲシテ、後來猶之ニ優ル吉
事アラント、期望ノ心ヲ起サシメタリ、
一月二日、英米兩軍ト^レニ相會ス、其間甚

ダ近ク、夜中互ニ燃火ヲ見タリ、ワレントン考
ケルハ、コルンヲールスノ兵ヲ撃ツハ、我勢力
足ラス、又テレワール河ノ景況險惡之ヲ越テ、
ニンスラダニア州ニ退クヲ難シト、是ニ於テ、僅
カニ數里隔リタル、ポリレンストンニ、進マン
ヲ決セリ、
此地ニハ、敵ノ分隊、許多ノ葛糧ヲ有レテ、屯營セ
リワレントン之ヲ知り、即チ一計ヲ設ケテ、僅カ
數人ヲ留メ、火ヲ燃シテ、敵ノ疑ヲ避ク、深夜ニ發
シテ、日出ニポリレンストンニ達シ、敵ノ不意ヲ襲

今、英國、兵、卷之三

三二

ス、ワシントン親ヲ飛丸ヲ冒シテ、進ミ戦ヒ、終ニ
悉ク敵ヲ走ラス、敵兵斃ル、者四百人、米軍ハ、僅
ニ五十人ヲ込ヘルルニ、
夫ヨリ、ワシントンハ兵ヲ率ヒ、モルリストン
ニ退キ、冬營ヲ設ケテ、三月間ヲ送レリ、初メハ天
幕モ無クフランケット、モ有ラザリシガ、モラデル
モア府ノ人民之ヲ聞テ、其所有ヲ惜マズ、持来テ
用ニ供セリ、
ゼ子ラトルズトナムガ督スル所ノ兵ハ、大ニ英
軍ヲ窘メ、一月ヨリ、四月ニ至ル迄ニ、一千人ヲ擒

ニシ馬ニ三百頭、輜重五六十ヲ奪ヘリ、此兵ハ
リンストンジニテ冬ヲ送レリ、又英將ロトルド
ルニヲトリリスノ兵ハニウブリンスタウキニテ、
冬ヲ送レリ、
此冬佛國ヨリ、火藥一千箱、小銃一万挺ヲ輸送ス、
コレ六月以前米國ノ總會ヨリ、佛國ニ、救援ヲ乞
ヒシガ、今初テ、其許諾セシ報ヲ得シナリ、後章ニ
到テ、余又佛國政府彈藥ヲ送リシ外ニ、何ヲ以テ、
ワシントンニヲ援ケンヤヲ語ラン、蓋ニ此時佛國
ハ、英國ト、兵ヲ構ヘザリシカ氏、舊怨アリテ、猶英

合衆國小史 卷之三

英米兩國之戰爭

國ヲ忌ミ惡シ故ニ、獨リ米國ノミナラス、總テ英國ニ敵スル國ヲバ、喜ビ助ケズト云フ無リキ、

第五十三章ノ題目

ワシントンハ、何ヲ行ハント欲セシヤ、
ワシントンカ率
ヒタル分隊ニ撃レシ兵ハ、何レノ國ノ人ナル
ヤ、其結局ハ如何、
英米ノ兩軍ハ、如何、
ワ
シントンハ何ヲ行ハント決セシヤ、
英軍ハ、
如何シテ、欺カレシヤ、
プリンストンノ戦争
ハ如何、
冬營ハ、如何、
ゼチラトルポトナム

ノ兵ハ、如何、
英將ハ何レノ地ニテ、冬ヲ送リ
シヤ、
米軍ハ、如何ナル救援ヲ得シヤ、
何故
ニ、佛國ハ、米軍ヲ助ケシヤ、
第五十四章 獨立戦争 其九
ラ、ハエートノ到着 ○
グラウンデトワイ
ノ戦争

同年七月佛國ヨリ、ラ、ハエート云フ弱齡ノ一
貴人、米軍ノ陣營ニ来レリ、此人ハ既ニ妻ヲ娶リ、
マルコイス仙國ノ爵名ノ位ニ居テ、騎兵ノカピテイ
ンヨリ令米軍ヲ援ケテ、戦ハシガ為ニ、故郷巴里

合衆國小史 卷之三

三四

英米兩國之戰爭

斯府ヲ發シ、大洋ヲ越テ來レルナリ、
ラハエートハ、此時齡猶二十歳ニ滿ザリケレド、
膽勇將略人ニ絶レンカバ、七月六日、米軍ノマ
ル、ゼ子ヲール官ト為リ、尋テセントニ面晤
セリ、

ワシントンハ春夏ノ間、ニウゼルン州ノ諸小
山ニ屯營セシガ、ラハエートガ來リシハニハ、陣
中ニ兵一万五千アリキ、時ニユウヨルク府ノ海
口ニ碇泊セル、英ノ軍艦隊モラデルモア府ニ進
ミ迫ル由、聞エケレバ、其府ヲ防禦セント、此地ヲ

發セリ、
九月十一日、ワシントンガ軍、英軍ト、ブランダ
ーウィン河上ニテ會戰、朝ヨリ暮ニ至リ、米軍終
ニ敗績シテ、ラハエート、傷ヲ被レリ、
ワシントン大ニ此敗績ヲ憂ヒ、必ズ敵ノセラデ
ルストア府ニ入ルヲ、妨ゲントテ、十六日ニ再ビ戰
ハント期シケレド、偶驟雨降テ、火藥濕ヒ、已ム
ヲ得ズ志ヲ果サズシテ、又北方ニ退キケレバ、二
十六日ニ、英軍遂ニモラデルストア府ヲ取リタリ、
其他米軍英ノゼ子ヲール空一ヌガ率ヒタル分

三十五

合衆國小史 卷之三

隊ト戦テ破ラレ、死傷三百餘人アリキ、然ルニ爰ニ赤心愛國ノ壯士等、一事ヲ遂テ、其成功遙カニ敵ニ優レリ、バルトント云ヘル米將兵卒四十名ヲ帥ヒ、小船ニ乘リテ、夜間竊ニ、ロイドアイランド州ノ島邊ニ破泊セル英ノ軍艦ニ漕キ寄セ英將プレスモトノ艦室ニ突入シ、彼ヲ寢床ヨリ引キ出シテ、擒トナシ、忽チ小船ニ載セテ、歸レリ、

第五十四章ノ問目
米陣ニ来リシ者ハ、誰ゾ、
リノ齡ハ、如何、
米

軍ノ如何ナル官ニ任セシヤ、
陣營ハ、何レノ地ナルヤ、
其兵卒ハ、幾何ダヤ、
ワシントンハ、何ヲ聞シヤ、
ブラシデロー
イン河ノ戦ヲ語レ、
ソシントンハ、何ヲ憂ヒ
レヤ、
何ヲ期セシヤ、
遂ニ如何セシヤ、
ゼ
子ラルウエーヌカ率ヒタル分隊ハ、如何、
バルトントノ雄舉ヲ語レ、
第五十五章 獨立戦争 其
英將ボルゴインノ進撃○ベンニントン、
及ビスチルヲートルノ戦、

合衆國小史 卷之三 三六

ミウヨルク州、及ビニウゼル州ニ於テ、前章
記スル所ノ事起リシ際ニ、名ヲ好シ、功ヲ喜ブ英
將ボルゴイント云者、兵一万ヲ帥ヒテ、カナダ國
英領合衆國ヨリ進ミ、チコンダゴ岩ニ迫ル、其
守兵防キ難キヲ見テ、逃レ出ントシ、彈ニ中テ、斃
ル、者千人、ボルゴイン、直ニ之ヲ抜キタリ、
斯テボルゴインニハ、更ニ進テ、八月一日ニ、ハッヅ
河上ノエドワルド岩ヲ攻ム、米將スカイレル、岩
ヲ棄テ、サヲトガニ退ケリ、又ボルゴインハ、米軍
ノ兵器彈藥多クハ、ベンニントニ在ルト聞キ

之ヲ奪掠センガ為ニ、コロ子ルボームニ、日耳曼
兵千五百ヲ授ケ、遣ヒタリ、
ボーム其途中ニ於テ、米軍ベニントニ守ル
ヲ甚々堅固ナリト聞キ、ボルゴインノ陣ニ、使者
ヲ遣ヒテ、其兵數ヲ増サシメテ請ヒ、其來ルヲ待
シ際ニ、米ノ勇將スタークハ、マッサチセツ及ビ
ニウハムプギイル州ヨリ、迅速ニ民兵ヲ募リ聚
メ、ボームヲ襲撃シテ、大ニ之ヲ敗リ、ソノ請ヒ援
兵ヲ來リシヲモ、亦々撃テ、之ヲ走ラセリ、
此役ヤ、米軍敵將ボーム及ビ其兵二百人ヲ斃シ、

六百人を擄にシ、且つ大砲四門、小銃一千挺、刀劔
九百口を奪へり、スタロクハ、此嚴撃ヲ為ス前ニ、
其小數ノ兵ヲ勵マシテ曰ク、兵卒等ヨ、今日我必
ズ敵ニ勝タン、然ラスンバ、今夜キルリノ外ノ妻
寡婦タラント云ントゾ、
既ニ語リシ所ノ、サラトガニ退キシ、スカイレル
ハ、北部陸軍都督ノ職ヲ免セラレ、ゼ子ラール、ゲ
ーッ之ニ代レリ、先ニボームヲ破レヨリ、諸民愈
奮勵シ、義兵四方ニ起テ、ケイツノ許ニ來會シ、勢
威益振ハリ、

九月十九日ゲイツノ兵、オバニヨリ、二十里
ナル、スチルヲトトルニ於テ、ホルゴインノ兵ト、
大ニ戦フ、其發砲ノ猛烈、殆んど未ダ曾テ有ラサ
ル所ニシテ、實ニ驚胆スベシ、黄昏ニ至テ、漸ク戦
ヲ収ム、死スル者、米軍三百人、英軍五百人ナリ、
ホルゴインノ兵、今ハ藹糧欠乏シ、僅ニ數日ノ食
ヲ餘スノミニシテ、米軍ノ為ト、其糧道ヲ斷レタ
リ、是ニ於テ、ホルゴインノ意、只米軍ノ列ヲ衝キ
破テ、ハツゲン河ノ下流ニ走リ、エウヨルク府ノ英
軍ト合スルニ在リ、乃チ十月七日ニ、再ビスチル

ヲトトルニ於テ戦ヘリ、
コノ戦ヤ、米軍日暮ニ及ンデ、遂ニ大勝ヲ得テ、戦
場ヲ取り、死込僅ニ一百五十人ノミ、英軍ノ死込
ハ、七百人ナリ、
ボルゴインハ、此地ヲ脱去セントテ、百方カラ竭
シケレバ、遂ルヲ能ハズ、進退斯ニ窮リテ、竟ニ降
服セント欲シ、全軍ヲ檢スルニ、病者二千五百、健
全ニシテ、能ク戦フ可キ者、僅ニ三千五百ノミ、加
之、萬糧乏シク、餓死ノ患、目前ニ在リ、是ニ由テボ
ルゴイン及ヒ其士官等、如何處ス可キヤヲ、決ス

ル為ニ會議ヲ催シ、各坐ニ列セシ時、適砲丸ハ、其
坐ヲ飛ビ過グルアリ、諸士之ヲ見テ驚キ兵卒等
ノ不平ナルヲ察シ、至急議ヲ決シ、十八日ニ、六
千ノ兵、皆砲銃彈藥ヲ携ヘテ、米軍ニ降服ス、米國
ノ諸民、此新報ヲ得テ、悦バルヲ、喻フベキ無シ、總
會深クゲイツノ功ヲ賞セリ、
第五十五章ノ問目
英將ボルゴインハ、如何、チコンデラゴ岩及
ビエトワルド岩ハ、如何、ベンニントノ守
備ハ如何、其地ノ戦ハ、如何、スタークノ、其

兵卒ヲ勵マセレ言ハ、如何、スカイレルノ身
分ハ、如何、米軍ハ益振ヒレヤ、スチルラー
トルノ戦ヲ語レ、ボルゴインノ兵如何ナル
事情ナリシヤ、十月七日ト起リシハ、何事ゾ、
スチルラートル再度ノ戦ハ、如何、ボルゴ
イン、此ニ至テ、如何セント欲セシヤ、會議ハ、
如何、ボルゴインノ降服ハ、如何、國民、及ビ
總會、此新報ヲ得テ、如何、
第五十六章 獨立戦争其十 海上ノ事情

余今是ヨリ先ニモラデルモア府ヲ占領セシ英
軍ト、其近傍ニ駐劄セシ、ワシントンノ兵トノ事
ヲ語ラント欲ス、英將ホウガ督セシ所ノ兵ハ、モ
ラデルモア府ニ屯營シ、一事ヲモ企ツルコト無ク、
亦行コト無シ、米ノ賢者ベンザミン、フランクリ
ン曰ク、ホウノモラデルモアヲ取ルニ非ス、モラ
デルモアノホウヲ取ルナリト、
英軍ノ一分隊、モラテルモア府ノ北六里ナル、
ルマントウニ陣セシニ、十月四日、ワシントン
之ヲ襲撃ス、初メハ利ヲ得シカ氏、激戦三時ノ後

今日本國小史 卷之三

大正十三年

火藥盡キ、民兵一隊、所為惡ク、且ツ零霧起テ、彼我
分明ナラズ、斃ル、者一千人ニ及ビ、遂ニ敗走シ
テ、モラテルスアヨリ十四里ナル、ウイトマーレ
ニ退ケリ、此役ヤゼ子ラールグリイン、及ビマ
ジョル、バルットノ兩將、敵ノ飛丸、為ニ頭髮一叢
ヲ失フタリ、

余今又端ヲ改メテ、語ラザル可ラズ、斯ク陸上ニ
於テ絶エズ、戦争アリシ際ニ、海上ニ於テモ、亦屢
之アリキ、總會嘗テ軍艦ノ建造ヲ命ジ、今ハ其數
艦、海上ニ在テ、能ク用ヲ為シタリ、蘇格蘭人ポト

ル言^米軍ニト云者、大砲十二門、海兵七十員ヲ
備^在タル軍艦、オロロデシキ本指^司令ヲ司リ、其週

間ニ英船十六艘ヲ奪掠ス、其後又十八門ヲ備^メ
タルラントナル艦ニ乗テ、蘇格蘭^ノ海岸ニ至リ、頓

リ、其人民ヲ驚愕セシメ、或^ハ時、其^ノ上陸進
撃シテ、其砦壘ニ入り、大砲三十門ヲ掠略セシト

ズ、
今語リシ所、千七百七十七年ノ戦争ノ結末ニ

至テ、米國軍艦ノ負數、砲七十四門ヲ備ヘタル艦

三艘、三十二門、乃至三十六門ノ艦十艘、其他小艦

今日本國小史 卷之三

合衆國小史 卷之三

二十艘アリ、但レ現用貯藏ノ兩艦ヲ併セ計フル
モノナリ、

第五十六章ノ問目

モラデルスア府ノ英軍ハ如何
フランクリ
ンノ評ハ如何
セントジョンノ戦争ハ如何
何、ワレントンハ、何レノ地ニ退キレヤ、
リインボルトノ兩將ハ如何、海戦ハ如何、
總會嘗テ何ヲ命セシヤ、
謝功ハ如何、
幾何

第五十七章 獨立戦争

其十

佛國ト同盟ス○ベルリホルジノ冬營
米人接テ佛ニ請テ之ヲ得タルハ、余既ニ之ヲ語
レリ、然レモ佛國政府未ダ合衆國ノ獨立ヲ許サ
ズ、英將ホルゴイン降服ノ新報、
初メテ米ノ欲スル所ニ從フヲ決スルニ至ヒ
リ、是ニ於テ千七百七十八年二月佛米ノ官莫巴
里斯府ニ於テ同盟貿易ノ條約ニ、
米ノ賢者ベンザミンフランクリンモ列坐シテ、
調印セシナリ、佛國ノ如キ、
強盛ナル古國ニ依テ

合衆國小史 卷之三

三

三

合衆國の事 卷之三

一個ノ獨立國民タルヲ許サレシハ、身ヲ棄テ
戦フ所ノ愛國者ニ於テ、豈ニ大幸ナラズヤ、
千七百七十七八年ノ冬、ワシントン及び其兵を
ラテルモア府ヨリ、北二十里ナル、スクールキル
、河邊ノベルリールホルジニ屯營ス、時ニ嚴寒五
穀缺乏、四千ノ士卒、軍屋ニ在テ、衣服寒氣ヲ防ク
ニ足ズレテ、夜中フランカトヲ被テ卧ス者少カ
リキ、
僅ニ二十里ヲ隔テ陣シタル英軍ハ、金銀ヲ以テ
其物品ヲ買フト雖モ、ワシントンハ、總會ヨリ發

行セル紙幣ノ外ニ有スル所ナク、此紙幣ノ位價、
低下セルガ故ニ、農民等、各其國兵ニ資給スルヨ
リハ、却テ英國ノ士卒ニ賣ルヲ喜ヒテ、ワシン
トンハ物品ヲ得ルニ術無シ、是ニ於テ總會ワシ
ントンニ、陣所ノ周圍、七十里内ニアル所ノ、要需
ノ物品、皆之ヲ收用スベキ權ヲ、與ヘタリ、
ベルリールホルジノ米軍既ニ此ノ如キ、窘苦ノ景
況ニ至リシカバ、總軍ノ中ニ、ワシントンヲ、其職
ニ称ハズト思フ者モアリ、又之ヲ退ケント、發議
スル者モ、多カリケレバ、一般ノ人民、怒テ、之ヲ承

合衆國の事 卷之三

支那の事

合衆國の歴史 卷之二



ワシントン及其兵ヘリ
一ホリスニモ當セシ圖

諾セザリシカバ、總會
モ遂ニ醒悟シ、斯ク兵
隊ノ冬營ニ困苦ヲ極
ムルハ、吾輩ノ職務ヲ
失フナリ、其罪、吾輩ニ
在リトテ、バローニ、ス
チウベレヲ舉テ、米軍
監督ニ任ス、此人ハ初
メプロシア王フレデ
リック二世ニ事ヘ、曾

テ米國ニ來遊セシ者ナリ、既ニ此職ニ任ジ、能ク
勉勵役事シテ、忽チ美績ヲ顯ハセリ、

第五十七章ノ問目

佛國政府ノ所為如何、條約ハ如何、ペルリ
ホルジハ、何レノ地ナルヤ、兵隊ノ困苦ハ、如
何、近傍ノ農民ハ、如何、ワシントンハ、如何、
ナル權ヲ得シヤ、總會中ニ、如何ナル發議ヲ
ナセシ者アリシヤ、バローニ、スチウベレハ、
如何、

第五十八章 獨立戦争 其三

合衆國の歴史 卷之二 四十四

合衆國小史 卷之三

文部省

英軍スラデルスア府ヲ棄テ走ル、○モン
モースノ戦争○モルピッタル○ゼ子ラ
ルリ

千七百七十八年五月、英軍ノ總都督ホウ、歸國ノ
命ヲ得テ、開帆ス、タル、ヘヌリ、クリントン、之ニ代
レリ、クリントンハ、先ツモラデルスア府ヲ棄テ、
ニューヨルク府ニ走ル、ワシントン之ヲ追テ進ミ、
遂ニ兩軍、モンモースニ會セリ、モシモースハ現
今ノニウゼルシ
州内ノフリ
ホルボナリ、
將ニ戦ハントスルニ及テ、米將ノ一人ナルゼ子

ラトリノ守地ヲ棄テ、走リシカバ、全軍之
ガ為ニ、紛乱レケレド、ワシントン、嚴レクリ
戒メテ、戦場ニ還シ、列位ヲ整ヘテ進撃ス、日暮レ
テ、勝敗決セス、天明ニ至テ、英軍悉ク遁レテ、一人
モ見エザリケリ、
此役ヤ、兩軍大ニ艱苦ヲ極メ、米軍ノ死傷二百三
十人、英軍四百五十人、時方ニ六月ニシテ、此日ノ
暑氣最モ烈シカリケレバ、戦闘中、英ノ兵卒、冷水
ヲ飲テ、忽然斃ル、者六十人、其他、暑氣ニ堪得ズ
レテ、戦場ヲ逃去リシ者、千餘人ナリ、此戦ノ勝敗

合衆國小史 卷之三

文部省

合衆國史 卷之三

判然タラズ、兩軍互ニ之ヲ争ヘリ、
米ノ砲兵卒ビテ、彈丸ヲ裝填セシ際、飛丸ニ中
テ斃ル、其妻モルハ、此時夫ノ為ニ、泉源ヨリ、冷水
ヲ運ビ居リシガ、直チニ夫ニ代テ終日砲兵ノ業
ヲ執リ、能ク其任ニ堪タリ、是ニ由テワレントン
ハ、モルヲ舉テ、セルゼント武官ト為シ、又總會ヨ
リハ、生涯其夫ノ給料ノ半ヲ與ヘタリ、尔後佛米
ノ人、彼女ヲ稱譽シテ、カビテイシモルト呼ベリ、
先ニ軍令ニ背キシ、ゼ子ヲトリルリハ、後書ヲ贈
テ、ワレントンヲ輕侮セリ、因テ武官ノ裁判局ニ

テ、之ヲ糾問セシニ、命令ニ叛ク罪一ナリ、總都督
ワレントンニ對シテ、不敬ナル罪一ナリ、敵ニ臨
テ所為不正ナル罪一ナリ、乃チ之ヲ罰シ、一年間、
軍務ニ関ルヲ禁ジタリ、
然ルニワレントンハ、其後忽チ書ヲ著シ、其行文中、ワレ
ントンヲ誅謗シ、自己ノ惡ヲ覆ハリ、又或ル人ト
語リワレントンヲ誅譏セシニ、其說ニ抗抵セシ
ヲ以テ、怒ヲ起シ、鬪争ニ及ビテ、其人ヲ傷ケタリ、
其後ケルジニア州ニ退テ、獨リ矮屋ニ住ミ、終ニ
テラテレルモア府ノ客館ニ、死シケルトゾ、

合衆國史 卷之三

異

合衆國の事 卷之三

英軍ハモンモースノ戦終テ、道ヲサンデー
クニ取リテ、ニウヨルク府ニ赴キ、ワシントンノ
兵ハ、ハッゾン河ヲ越テ、ハイト、プレイシニ赴ケリ、
第五十八章ノ問目
總都督ホウ及ビソル、ヘヌリ、クリントンハ、如
何、兩軍何レノ地ニ會セシヤ、
セ子ヲトル
リハ、如何、戦争ノ結局ハ、如何、兩軍ノ死
傷ヲ數フベシ、
ピセルノ妻ノ美談ヲ語ル、
何故ニ、リハ、糾問セラレシヤ、
其罪状ハ、如
何、
譴罰ハ、如何、
生涯ノ所行ハ、如何、
後何

平陸ノ地ニ住ミ、終ニ何レノ地ニ死セシヤ、
兩軍モニモースヲ去テ、何レノ地ニ赴キシヤ、
第五十九章ノ獨立戦争其十
佛國ノ軍艦隊来ル
ワイオミングノ暴
殺
○英船ノ囚獄
英ノ船隊、
ヨルク府ノ海口ニ入ル、
時ニ佛國ノ軍艦隊十八
艘陸軍四千ヲ乗セテ、
デレワールニ来リ、
之ヲ攻
撃セント欲セシニ、
英船既ニ茲ヲ去ケレバ、
其統
都督カウント、
テスタングハ、
ワシントンノ報告

合衆國の事 卷之三 四七

ニ從テ、ロードアイランド州ノニウボルトニ赴
ケリ、然レ氏、佛軍ハ、猶一箇ノ事功ヲモ立テズ、暫
ク茲ニ記スルニ足ル事ナシ、故ニ余只左ノ事ヲ
舉ルノミ、佛將テスタングハ、ボストン海口ニテ、
空シク時日ヲ費シ、尋テ、西印度ヲ巡察シ、又米軍
ヲ接ケ、サバニナ島ニテ、英軍ヲ圍ミシガ、成功無
クシテ本國ニ歸帆セリ、
千七百七十八年間土人甚々妨害ヲナセリ、ヘニ
シテラ帝ニア州ニウイオミングト云ハル、繁盛
平穩ノ殖民所アリシガ、故有テ土人之ヲ惡シ、初

メハ、屢書ヲ通シテ、懇親ヲ求人、其信許ヲ得シト
ス、殖民ハ、之ヲ疑ヒ、ソノ隱謀有ラントテ怖レテ、
保護ヲ、ワレントンニ請ヘリ、然レ氏、此事既ニ甚
ク遅カリキ、
斯テ七月初旬ニ至テ、土人ノ装ヲナレタル英人、
土人ト共ニ、突然此小殖民所ノ岩前ニ現レ出テ、
其守將以下四百人ヲ欺キ、和議ヲ講スルト約シ、
山林ニ誘ヒ行キ、岩ヲ離ル、
未ダ遠ラザル所
ニ到リテ、不意ニ之ヲ殺シ、ソノ残忍ヲ極メタリ、
虎口ヲ免カレシ者、僅ニ六十人ノミ、尋テ土人等

合衆國の事 卷之三

又来リテ、壁上ヨリ其死骸ヲ、岩内ニ投シ、其周圍ニ放火シ、茲ニ遁レ匿レタル男女童子ヲ盡ク殺セリ、
又田野ヲ荒シ、菓樹ヲ伐リ、家屋ヲ焚キ、剩ヘ牛馬ノ舌ヲ斷テ、其苦死ヲ省ミス、此時巖陰樹穴ニ遁伏セシ數人ハ、竟ニ餓死セリ、後來コノ酸鼻ス可キ一事件ヲ称シテ、ワイオミングノ暴殺ト云ヘリ、
尔等知ズンバヤル可ラズ、凡ソ兵ヲ構テ討テ、兩軍互ニ擒者ヲ交易シ、將ヲ以テ、將ニ易ヘ、卒ヲ以

支那の事

テ、卒ニ易フルヲ、其常法ナリ、此時英人ノ米ノ擒者ニ於ルヤ、其換易ノ時至ル迄、甚ダ羞惡スヘキ處置ヲ為シケレバ、英ノ諸民スラモ、之ヲ憤レリ、
英人ハ、擒者ヲバ、或ハ本國ニ送テ、其獄ニ繫キ、或ハ、
ニウコルクニウゼル州ノ海岸ニ碇泊セシ艦中ノ獄室ニ囚フルニ至レリ、此酷暴及ビ疾病ニ因テ死スル者、數千人ニ及ベリ、千七百七十八年ノ末ニ、英人モ、此ノ如キ處置ヲ恥テ、二万ド
ルヲ募テ、擒者ノ扶助ニ供セリ、
千七百七十八九年ノ冬ヲセントンノ兵ハ、空ス

合衆國の事 卷之三

四九

支那の事

今... 卷之三

トポイント及ぼ其近傍ニ屯營シ、英軍ハニヤヨ
ルク府ニ駐劄セリ、

華五十九章ノ題目

佛國ノ軍艦隊ハ如何、此船隊米國ニ於テ何

ヲ成セシヤ、ワイオミングノ暴殺ハ如何、

凡ソ擒者ヲバ如何スルヲ常法ナレヤ、英人

ノ擒者ヲ遇スル如何、英人ハ遂ニ如何セ

ルヤ、此冬、兩軍何レノ地ニ屯セルヤ、

第六十章其獨立戦争其十

コニ子クナカトノ事件○ズト翁ノ健闘

千七百七十九年英軍ハ方略ヲ一變シ士卒ニ勝

トト全國ニ勝ツ其功効自ラ懸隔スサレバ士

卒ト闘ハシヨリハ寧ロ諸民ヲ窘ムルニ如カズ

トテ兵ヲ多クシテ州ノ海岸ニ遣シテ村落ニ

放火シ船舶ヲ破壊シ田野ヲ蹂躪シ且ツ多量ノ

煙草ヲ抄掠シ横暴酷虐至ラザル所無クシテ曰

ク叛逆人ナルガユエ此ノ如ク處置シテ可ナリ

ト

又セテ子トシテトライオンハ兵ヲ率テコニ子ク

チルト州ニ至リ、ヘイルズフィールド及ビノルト

英軍小史

卷之三 辛 從部

合衆國小史 卷之三

クニ放火ヒ、ニウハーゲンノ市中ニテ、剽掠ヲナ
シ、寢室ニ迄乱入シ、婦人ノ頭中指環ヲモ奪ヘリ、
斯テ遂ニスタムプホルドニ到リ、米將ゾト翁ニ
遇ヘリ、此翁、不練ノ民兵百五十、大砲二門ヲ以テ、
英ノ精兵千五百ニ敵シ、其兵數十分ク一ナリト、
雖モ、暫ク戦ヒテ之ヲ惱マレタル後、令テ下シテ、
兵ヲ退ク、敵ノ騎兵隊、翁ヲ目シテ、追ヒ来ル、翁單
騎疾馳レテ、嶮巖ニ到ル、コレ近傍ノ諸民ノ寺院
ニ往還スル為ニ、設ケタル間道ニシテ、峻坂百歩
許、進退維谷ナリ、然レモ猶奮發シテ、疾馳セシ



ニ、追者ハ之ニ續キ進ムコト能ハズ、其帶ル所ノ小
銃ヲ、連發セシカニ、僅ニ其一發、翁ノ帽子ヲ貫ケ
ルノミナリキ

第六十章ノ問目

英軍ハ、方略ヲ如何變ヒシヤ、英人タルジニ

州ニ於テ所行如何、コン子クチ多ト州ニ

於テ如何、スタムプホルドニ、起リシ事ハ、如

何、ズト翁ノ健闘ヲ語レ、

第六十一章 獨立戦争 其十

ストニ一若ノ収復○土人ヲ勦討ス、

合衆國小史 卷之三

五

英人

千七百七十九年ノ初メニ、ワレントンハ、ストニ
 一及ビダルフラニクノ兩處ニ砦壘ヲ築造セシ
 ム、此兩處ハ、ハツブレ河ノ兩岸ニ對峙セリ、砦壘未
 ダ落成セサル前ニ、英ノ強兵、ニウヨルクヨリ來
 リ攻メ、守兵ヲ走ラシメテ、之ニ據レリ、
 ソレントンハ、其一砦ストニ一ヲ取還サレト、決
 定シケルガ、敵兵六百ナルカ故ニ、其數ニ倍シ、ニ
 ウエンゲランド人千二百ニ、ゼチラールウエー
 ヌヲ將トシテ遣レケル、砦ハ山頂ニ在リ、ウエー
 ヌハ進テ、其下十四里ノ處ニ屯セリ、

七月十五日、又進テ其日暮ニ砦ヨリ、僅カ一里ノ
 地ニ迫リシニ、適白髮ノ黒色人ニ遇ヘリ、其名ヲ
 ボムバト云フ、毎日彼砦ニ往キ、其兵卒ニ覆盆子
 ヲ賣ル者ニシテ、能ク敵ノ其番兵ニ通スル暗号
 ヲ知レリ、因テウエーヌノ兵卒二名ヲ、敵ノ番兵
 ノ居處ニ導ケリ、
 此兵卒ハ番兵二名ヲ縛シ、其口ヲ覆ヒテ、砦中ニ
 報告スルヲ得サラシム、是ニ因テ、米軍ハ敵砦
 ノ建ツ所ノ山麓ニ達スルヲ得テ、敵未タ之ノ
 知ラス、其前ニ深沼アリ、皆胸腹ヲ没シテ渡リ、夜

半ニ、彼山ニ登レトス、
 此時米將ウエーヌハ、低キヨリ高キニ發銃スル
 トモ其成功大ナラザレバ、劔鋒ヲ以テ勝ヲ取
 ト欲シ、令ヲ下シテ填丸スルヲ禁ジ、嶮滑ノ山
 路ヲ進テ、岩ニ迫リシニ、敵忽チ砲銃ヲ放チ、其勢
 甚ダ猛烈ニシテ、ウエーヌハ、最モ初ニ傷ヲ被テ、
 倒レタリ、
 サレバウエーヌハ、少シモ構マズ、速カニ、一脚ニ
 依テ立ち、敵ヲ揚ケテ曰ク、進メ、余カ勇徒、進メ、余
 ノ扶ケテ岩中ニ入シムヘシ、縱令死ストモ、岩内

ニ死セシト、米軍ハ烈砲ヲ冒カシ、死傷四百名ニ
 及ベテ、自ラ一丸ヲモ發セズ、只劔鋒ヲ以テ戦ヒ、
 竟ニ岩ヲ取リシカバ、守兵五百五十人降服シ、其
 他ハ盡ク戦没ス、ウエーヌハ、乃チ岩ヲ毀チテ、退
 ケリ、コレ獨立戦争中ノ最モ顯赫ナル働キニシ
 テ、總會金貨ヲ新タニ鑄造シテ、ワシントン及ヒ
 ウエーヌヲ賞セリ、
 同年秋、土人等先キニワイオミングニ於テ、暴殺
 ヲ行ヒシニ因テ、ソルリバン、兵五千ヲ帥ヒテ、
 ウヨルク及ビベニンスラゴニア州ノ土人等ヲ

征討シ、其市里、菓園、田畝ヲ蹂躪シ、殊ニ米穀十二
 万八千苞ク、灰燼トナス、土人等相率ヒテ、西ニ走
 リケルハ、白哲人、其田園獵地ヲ、盡ク略取セリ、逃
 ゲザル土人等ハ、大ニ懲リテ、後又シテ此事ヲ忘
 レズワレントシ、真ノ名ヲ怖レ、之ヲ称シテ、市
 里蹂躪者ト云ヒケルガ、後能クソノ徳ヲ知ルニ
 及テ又大父ト呼ヘリ、

第六十一章ノ問目

大ストニト及ビベルプラシクノ兩岩ハ、如何、
 セ子ヲीलルウエトヌノ兵ハ、如何、岩ニ進シ

迫リシ始末ヲ語レ、岩ヲ取リシ事ヲ語レ、

英軍ノ死凶ハ、如何、其ウエトヌ、此岩ヲ如何セ

シヤ、總會ハ、何ヲナセシヤ、土人征討ハ、如

何、逃ガリシ土人等ハ、如何、

第六十二章 獨立戦争 其十

獨立戦争ノ間、用キタル貨幣、

余既ニ、前章ニ於テ米軍ノ物品ヲ買フニ、紙幣ヲ
 以テシ、英軍ハ然ラズ、許多ノ金銀ヲ有セシトシ
 語レリ、今茲ニ於テ、何故ニ、此ノ如キヤ、又是ニ由
 テ米軍ノ如何許艱苦セシヤヲ、語ラザル可ラズ、

千七百七十五年、即チ兵端ヲ開キシ年、總會金貨無キヲ以テ、紙幣ヲ發行セリ、コレ即チ現今ノ為換座ノ證券ニ同シ、譬ヘハ、五圓ノ紙幣ハ、後日、金貨五圓ヲ以テ引替ル、約定書ナリ現今爾等、為換座ノ證券ヲ觀レハ、コレ又書面ノ金高、本位金貨ヲ以テ引替ル、約定書ナルコトヲ知ルベシ、故ニ尔等其證券ヲ發行セシ所ノ為換座ニ渡セハ、必ス其金高ニ準シテ、金銀ノ貨幣ヲ、收取スルコトヲ得ベシ、所謂為換座ニテ、其證券ヲ引換ル法此ノ如クシレテ、其證券ノ價ノ貴キテ、金貨ニ等シ、

然ルニ總會ノ紙幣ハ、金貨ト同價ナルコト、只暫時ノミ、發行後、忽チ諸民ノ思惟シケルハ、總會斯ク多ク紙幣ヲ出シ、通用セシムルトモ、後日必ス金貨ヲ以テ、引換ルヲ得ズト、是ニ由テ、尔後其價次第ニ低下セリ、發行後二年、即チ千七百七十七年ニハ紙幣三圓、金貨一圓ニ等シ、僅ニ價直一圓ノ物品ヲ、買ヒ得ル而已、千七百七十八年ニハ、六圓、僅ニ一圓ノ價ニ下リ、又千七百七十九年、即チ余カ方ニ記シ至リシ年ニハ、金貨一圓紙幣三十圓ニ當リ、尋テ殆

今... 卷之三

文部省

下價ヒナキニ至レリ、
ソノ低下ノ甚ダレキニ至テハ、コロ子ルノ武官其
給料六月分ヲ費スト雖モ、麦ヲ以テ其乗馬ヲ養
フヲ能ハズ、又長省一對ヲ買フニ、紙幣六百圓ヲ
要セリ、
ソノ景況ハ、此ノ如クナレバ、總都督ワシントン
紙幣ノ外更ニ貨幣ヲ有セズ、千七百八十年通用
セシ所ノ紙幣ニ億圓ニ至リ、既ニ農家ヨリ、其産
物ヲ買フカ無ク、又士卒ニ給料ヲ與スルカモ無
ク、

尔等ノ中ニハ、斯ク自國ノ為ニ、敵ト戦フ人ハ、給
料ヲ欲セズレテ、可ナリト思フ者モアラシ、然レ
モ、亦尔等ノ思惟セザル可ラザル事アリ、士卒軍
役ニ出テ、家ニ在ザレバ、其妻子、生計ヲ營ム策ナ
シ、給與ヲ得ズトモ、好テ戦フベキハ、固リ當然ナ
リト雖モ、豈ニ家族ヲシテ、饑餓ニ陥ラシム可ン
ヤ、
事勢窘蹙、既ニ此ノ如クナリケレバ、ソレントン
ソノ兵隊ヲ解散セザル可ラザルコトヲ、恐ルハ、ニ
至レリ、此時ニ臨テ赤心愛國ノ徒、奮ヒ起テ、國ノ

新編國史 卷之三

五六

政卿指

為ニカヲ出サズニ、彼必ズ己ムヲ得ズ、解隊
ニ及ビシナラン、尔等齡猶幼ニ、愛國ノ徒、如何ナル
術ヲ以テ、其望ヲ遂ゲシヤ、猶解ニガタシ、成長ノ
後、宜シククロベルトモルリス及ビ北亞米利加ノ
為換座ニ就テ、講求ス可シ、

第六十二章ノ問目

ル等宜シク何ヲ知ルヘキヤ、總會ハ、如何ナ
ル貨幣ヲ發行セシヤ、何故ニ、斯ク為セシヤ、
紙幣ハ、如何、何故ニ、為換座ノ證券、金貨ト
同シク、ソノ價貴キヤ、總會ヨリ發行セル紙

幣ハ、如何、其價ハ減スル所以ハ、如何、其例
ヲ舉クベシ、ワレントシノ情態ハ、如何、士
卒ニ給セザル可ラザル所以ハ、如何、ワレン
トシハ、何ヲ恐レシヤ、其事ハ、如何ナリシヤ、
第六十三章 獨立戦争其十

米軍南部ニ困苦ス、○メリオンノ徒○佛
國船隊ノ來着

千七百七十八年春、米軍糧食甚ダ乏シク、砂糖、茶、
酒、醫藥等、之無キノミナラズ、粗食サヘモ、多ク得
ルヲ能ハズ、加之、五月間、給料ヲ受ケズ、ソノ困苦

ノ景況、實ニ懸然ニ堪ヘタリ、此時幸ニ佛國ニ往
 キシテ、ハ、エート還リ来リテ曰ク、佛國ノ大軍艦
 隊、陸軍ヲ乗セテ、速カニ来リ援クベシト、人々之
 ヲ聞テ、大ニ悦ビ、恃ム所有テ、志氣撓マズ、然レモ
 北部ニ於テハ、其至ルヲ待テ、暫ク事ヲ舉ザリキ、
 南部ハ、甚ダ之ニ異ナリ、早春英軍ノ總部督クリ
 シトシ、八千ノ兵ヲ帥ヒテ、ミウヨルク府ヨリ開
 帆シ、南カロライナノチャールズトシ府ニ往テ、
 之ヲ圍ム、米將リシエレン、兵四千ヲ以テ、之ヲ守
 リ、死カヲ盡シテ、防禦セシカレ、遂ニ保ツテ得

ズ、大砲四百門ヲ殘シ置キテ、退壘セリ、
 米軍ハ、其他數多ノ砦壘ヲ侵攻セラレモ、モールト
ライ及ビナイシテ、イシックスノ兩砦ヲ失ヒ、モ
クスコル子ルウア、クスハウスノ戦争ニモ、敗ヲ
 取レリ、
 英軍ハ斯ク要害ノ諸砦ヲ畧取シ、尋テ大ニ暴虐
 ヲ、諸民ニ行フ、故ニ諸民忿激シ、政府ノ軍隊ニ係
 ハラズ、私ニ自ラ小隊ヲ結ヒ、山林ニ屯シテ、木實
 ヲ拾ヒ、或ハ野獸ヲ獵リテ、食料ニ供シ、常ニ隙ヲ
 覘ヒ、機ニ投シ、突出シテ、敵ヲ襲ヒ、必死ヲ極メテ、

奮上戦ヒ、屢勝ヲ得タリ、
 此鳥合ノ徒ニ首長タル者ノ内、サムタル、ワイヌ、
 マリオン等、最モ有名ナリ、マリオン隊ハ、元來二
 十名ニシテ、或ハ大人、或ハ童子、或ハ白哲人、或ハ
 黒色人ナリ、全隊皆蔽衣ヲ着セシ故ニ、蔽衣隊ト
 称セラレ、此徒斯ク蔽衣ヲ着シタルニ、輕視スベ
 キニ非ラズ、私ヲ捨テ、國ヲ愛シ、頗ル武勇ヲ顯ハ
 シタリ、其談現今猶許多之有リ、
 八月十六日英米兩軍、南カロライナ州ノカムデ
 ンニテ烈シク合戦ス、戦争起コルヤ、否ヤ、ザルジ

ニア州ノ民兵、敵ヲ後ニシテ奔ル、獨リ精練ノ兵
 ノミ、奮闘セシカニ、忽チ破ラレ、米將ゲトツ敗兵
 ヲ率セテ、迅速ニ、北カロライナ州ニ退ケリ、此役
 ヤ、死尸、及ビ半死ノ者、田野、沼池、道路等ニ充滿シ、
 米ノ死囚二千、其他、砲銃、彈藥、萬糧ヲ失ヘリ、
 尔等必ズ應ニ思察ス可シ、
 國ノ船隊來着シテ、失望シタル米人ヲ喜バシム
 ルナラント、豈ニ料ランヤ、佛艦來テ、其陸兵六千、
 出テ戦ハント欲スレニ、總會窮迫シテ、ワシント
 シノ兵ニ、給料ヲ與ヘザルガ故ニ、兵卒皆已ム

ヲ得ズ、郷里ニ歸テ、各家族ノ為ニ生業ヲ營ムニ至レリ、

是ニ由テワシントンハ、佛兵ト聯合シテ、戦フヲ得ズ、只之カ為ニ、心思ヲ勞スルノミ、其際ニ又二個人困難ヲ生ゼリ、強盛ナル英國軍艦隊ノ来着ト、ベチヂクト、アルノルドノ謀叛是ナリ、

第六十三章ノ問目

米軍ノ景況ハ、如何、
ラ、ハエリトハ、何ヲ告シヤ、
此新報、如何ナル効アリキヤ、
トニ府ノ圍ハ、如何、
其他米軍ノ不幸ハ、如何、

英軍ノ暴虐ニ由テ起リシ事ハ、如何、

及ビ其他白人ノ如何、

戦争ノ始末ヲ語レ、

トシテ情態ハ、如何、

其際ニ生シタル二個人ノ

第六十四章 獨立戦争 其十九

ベチヂクト、アルノルドノ謀叛

此時米軍ノ一將ニシテ、空ストポイント岩ヲ守

リシ、ベチヂクトナルノコシチキカト

州ノハルカチニ生ル童子ノ時ヨリ、常ニ不正ヲ

行ヒシ者ナリケルガ、遂ニ謀叛シテ、己ノ國ヲ英
 國ニ賣ラントセリ、令余其謀叛ノ始末ヲ語ラザ
 ル可キス、
 彼ハ幼童ノ時、好テ諸鳥ノ巢ヲ覆ヘシ、或ハ小鳥
 ニ傷ケ、或ハ其手足ヲ斷テ、且ツ好テ友童ヲ窘メ、
 或ハ惡名ヲ付ケ、或ハ己ヨリ弱シト思ヘバ打チ
 惱マレ、ナルチノ藥店ニ入テ使役セラレシニ屢
 脱走シテ、父母ノ心ヲ痛マシメタリ、
 既ニ成長シテ後、自ラ生業ヲ營メバ、不良ヲ行ヒ、
 人ニ信ゼラズ、破産シ、遂ニ兵卒ニ備ハレ

テ又出奔シ、後再ビ軍役ニ出テ、暫ク不正ヲ行ハ
 ザリシガ、又慎ミテ能ハズ、武官ノ裁判局ニ糾問
 ヲ受ケ、ワシトシヨリ、大ニ戒責セラレタリ、
 是ニ至テ初テ國ヲ叛カセヨク決心シ、常ニ隙ヲ
 覘ヒ、口ニ報國ノ志篤キヲ唱ヘテ、人ヲ信用ヲ
 得、遂ニ多ストポイシト岩ヲ將ニ任ゼラレ、直チ
 ニ、英軍ノ總都督クリントンニ、隱謀ヲ通シテ、岩
 ト共ニ其守兵砲銃、彈藥、薪糧等ヲ盡ク渡サント
 告タリ、クリントンニ惟ヘラク、米軍若彼岩ヲ失フ
 所ハ必ズ挫折シテ、戦ヲ止ムルニ至ラント、乃チ

之ヲ聽キ、之ト條約ヲ成シ、為ニ使節ヲ遣シタリ、
此使節ハ、二十四歳ノ少年ニシテ其名ヲアンド
レウト呼ベリ、ザルモトルト號スル、帆檣一本ノ
軍艦ニ乗テ、ハツノ河ヲ泝リ、タストホイント岩
ニ近ツキ、患ヒ無キ處ヲ察シテ、錨ヲ投シ、九月廿
一日夜、窈カニ上陸シテ、アルノルドニ面會シ、ハ
ベルストラウノ林中ニ於テ機事ヲ談判セリ、
此時、アルノルド擔テ曰ク、クリントン君ハ、船隊
ヲ帥ヒテ、河ニ泝リ、若ヲ攻撃セラルベシ、余ハ防
禦ノ態ヲ顯ハスノ事ニシテ、若ヲ明渡サント、因

テ、アンドレウヲシテ、若ノ形状、外郭、及ビ所備ノ
大砲ヲ觀セシメ、又事成ラバ、其褒賞トシテ、元ヅリ
ガテイル、ゼチラールニ任シ、金五万圓ヲ與ヘラ
レシメ、ヲ求メタリ、
今更ニシテ、此等ノ條約書ヲ悉ク鞋襪ノ中ニ
匿シ、其明暮、
ニテ、タリトウニ達ス、茲ニ於テ、米卒三名ニ
遇フ、米卒等彼ヲ見テ怪シ、止メテ、其躰ヲ探リシ
ニ果シテ、書ヲ鞋襪中ニ得タリ、アンドレウハ、吾
ヲ許サバ、金五万圓ヲ與ヘント云ケレ、兵卒等

之ヲ聽ズ、直チニ捕縛シテワシントンノ本營ニ
送ル、アルノルドハ、之ヲ聞テ、忽チ若ク脱シテ、英
陣ニ走レリ、
諸米ノ官首十四名出テ、アンドレウヲ裁判シ、問
者ナリト布告シ、絞罪ニ處セントス、然レモ米ノ
全軍、大ニ彼ヲ憐ミケサバ、ワシントン彼ヲ以テ、
アルノルドニ易ヘンコトヲ、敵ニ言送レリ、然ルニ
敵將ハアルノルドノ罪、免カレ難コト察シ之ヲ
承諾セザリシカバ、（イギリス）アルノルドハ、遂ニ十月二日
ヲ以テ、（イギリス）鎗臺ニ刑死セラレタリ、

アルノルドハ、敵ニ降リテヨリ、大ニ本國ニ妨害
ヲナシ、軍役終テ後、英國ニ往キ、約定ノ如ク、金五
万圓ヲ受ケタレ、（イギリス）人々皆之ヲ賤メリ、齒六十一
歳ニシテ、龍動府ニ死ス、死後命ニ至テ、猶叛逆人
ノ汚名ヲ蒙レリ、
又アンドレウヲ捕縛シ、賂金五万圓ヲ受ケザリ
シニ少年ハ、總會ヨリ、褒賞トシテ、各生涯、年給ニ
百圓ヲ賜ハリ、且ツ銀貨ヲ鑄造シテ、其功ヲ後世
ニ表セラレタリ、
第六十四章ノ問目

ベ子ヂクト、アルノルドハ如何、其童子ノ時
ハ、如何、兵隊ニ入テ、如何、武官ノ裁判局ニ
於テ、如何、アルノルドハ、何ヲ決心セシヤ、
如何シテ皇ストポイント若ノ將ニ、任ゼラレ
シヤ、隱謀ヲ誰ニ通ゼシヤ、承諾セラレシ
ヤ、アンドレウハ、如何、ソノ旅行及ビアル
ノルドトノ會見ハ、如何、何ヲ談判セシヤ、
アンドレウノ歸途、及ビ捕縛サレシ始末ヲ語
ル、之ヲ聞テ、アルノルドハ、如何セシヤ、全
クアンドレウハ、如何處セラレシヤ、

附内、何敵ニ言送リシヤ、アルノルド、敵ニ降
リシ後ハ、如何、英國ニ往テ後、如何遇セラレシ
ヤ、ソノ死ハ、如何、アンドレウヲ捕縛セシ、
三少年ノ褒賞ハ、如何、
第六十五章 獨立戦争 其二
コウペン及ビヨウタウスプリングノ戦
争、○海軍
千七百八十年ノ冬、北部ノ米軍ハ、ニウゼルシー
州ニ屯營セリ、明年春北部ハ、殆ンド事ヲキガ如
クナレド、南部ハ然ラズ、屢戦争アリ、一月初旬、英

米ノ分隊南カロライナ州ノコウペンニ戦スル、
此役英軍ハ精兵一千、コロチル、タルレトシ之ニ
將タリ、米軍ハ兵僅ニ五百ニシテ、衣服又備ハラ
ザレド、ゼチラール、モルガン之ヲ指揮シテ、大ニ
勝利ヲ得、南部ニアリシ敵ヲ抑制シ遂ケタリ、
斯テ春ノ末迄、屢此州ニ於テ戦争アリ、ゴイルホ
ルドコールト、ハウスカムデンノ役ノ如キ、皆英
軍利ヲ得シカド、許多ノ人命ヲ亾ヒ、遂ニ商議シ
テナインティンクス及ビモトル、又トシテ外、此
州内ノ諸砦英軍先キヲバ、盡ク棄テタリ、
畧有ス

後又ナインティンクスヲモ棄テ、六月ヨウタウ
スプリングノ役ニ、千百餘ノ兵ヲ亾ヒ、遂ニ南カ
ロライナ州ニ於テ、戦フベキ勢力無ク、只一個猶
存スル所ノ要害、モールストン府城ニ退ケリ、総
テ此際米國微力ノ海軍モ奮勵シテ、大ニ戦ヘリ、
同年十月、砲十六門ヲ備ヘタルリヲトガ艦、英艦
ト戦ヒ、海兵敵艦ニ突入シ、甲板上ニテ接戦シ、其
艦及ビ小艦ニ艘ヲ奪ヘリ、明年三十二門ノオリ
リアニス艦、敵ノ十六門及ヒ十四門ノ兩艦ト戦
テ、又之ヲ奪ヘリ、其他米軍屢利ヲ得シカド、英軍

ノ勝ハ稀ナリ、此ノ如クニシテ、二年間ニ、米軍ノ失ヒシ所ハ小艦數艘ノ外プロビデンス、クエシ、オフ、フランス、ボストン、ランジル、トルムバルノ五艦之ニ備ヘタル大砲、總計二百二十五門ナリ、此時ニ方テワシントンハ、既ニテ、ハエート、及ビロキムボウガ帥ヒタル佛ノ陸軍デクレスガ帥ヒタル其海軍ト、合併スルヲ得タリ、今余ガ最モ緊要ナルヨルクタウンノ役ヲ記載スベキ時至レリ、ソハ後章ニ譲ル可シ、

第六十五章ノ問目 冬時北部ノ米軍何レノ地ニ屯營セシヤ、一月ニ起リシ事ハ如何、英軍ハ如何ナル形勢ニ至リシヤ、ヨウタウスブリニダノ役ハ如何、其際海軍ハ如何、サラトガ艦ノ戦ヲ語ヒ、オトリリアニス艦ハ如何、失ヒシ艦ハ如何、ワシントン既ニ如何スルヲ得シヤ、余今何事ヲ記載スベキヤ、 第六十六章 獨立戦争 其十一

ヨルクタウンノ攻戦 ○ロールドコルン
ヲリスノ降服

前ニ南カロライナ州ノ戦ニ英軍ノ指令ヲ司リ
コールドコルンヲリスハ千七百八十一年
夏ロールドロイドニテレテ、モールストンヲ守
ラレメ、親ヲ兵數千ヲ率ヒテザルシニア州ニ来
リ、茲ニ於テ新々ニ兵ヲ増加シ、總計七千ニ將ト
シテ、ヨルクタウンヲ略取シ、堡壘ヲ築テ之ヲ據
レリ、此地ハ、モリスノ海口ヲ距ルテ、七里ニ
シテ、ヨルク河ノ邊ニ在リ、又此河ヲ越テ、一村ア

ル、ダロトスタルト云ヌコルンヲリス兵、又
之ヲ據レリ、ヨルク河ノ邊ニ堡壘ヲ築テ、モリス
九月下旬ニワレトシテ、モリス佛將スハ、ボ
ロ委ムボシト兵ヲ併セ、一万二千ヲ以テ、三方ヨ
リ之ヲ圍ム佛ノ軍艦隊ハ河口ヲ守リテ、敵ノ遁
逃ヲ妨グ且ツ萬糧漕運ノ路ヲ斷ツ、十月初週ヨ
リ、米佛ノ兵、カヲ戮セテ、間斷ナク、砲臺ヨリ放發
シテ、英ノ外堡ヲ破碎シ、其守兵ヲ走ラシ、次第ニ
接近シ、大ニ砲ヲ放チテ、之ヲ攻メ、又ヨルク河ニ
投錨セル英艦四艘、烙丸ニ中テ、焚燒セリ、

台原國小史 卷之三

是ニ於テコルンヲトリヌモ、防禦ノ術盡テ、百方
逃脫セシト企テケレド、良計ヲ得ズ、遂ニ一個粗
暴危殆ノ策ヲ決シテ、兵器ヲ毀テ、傷者ヲ棄テ、若
ヲ出テヨルッ河ヲ越エ、ワレントンガ屯セシメ
タル佛兵二千ノ陣列ヲ衝破テ、カヲ盡シテ、疾ク
走ラシトセシカド、コレ亦不幸ニシテ、遂ルニ能
ハザリキ、
今日コルンヲトリヌ、進退維谷リ、如何トモス可
ク、十月十九日、遂ニ劔ヲ解テ、米軍ニ降り、ソノ
陸軍ヲワシシトシニ渡シ、海軍ヲダグラスニ渡

セテ、ノ不劔ヲバ、ワレントン親ヲ出ズシテ、ゼ子
ヲトリシコルンヲレテ受シメタリ、コレ十八
月前、コルンヲトリヌガ、リニコルンヨリ、キ
ストン府ヲ取リ、時ニ、恥辱ノ盟ヲ為シメシ故
ニ、今乃チリニコルンヲレテ、報復ヲ為サシメタ
ルナリ、
此役ヤ、英軍兵七千、及ビ其砲銃彈藥糗糧ヲ悉ク
失ヘリ、ワレントンノ士官一名、此大捷ヲ告クル
為ニ、直チニ馬ヲ馳テ、セラデルモア府ニ趣ク、沿
道ノ諸民、此好報ヲ得テ、志氣ヲ起シ、後來ヲ樂マ

台原國小史 卷之三 六八

ザル者無シ、ヤガテモラゲルモア府ニ到リシカ
バ、府廳、鐘ヲ鳴シテ、此慶賀ヲ布達ス、諸民之ヲ聞
テ、互ニ抱キ合ヒ、或ハ叫ヒ、或ハ歡極テ泣ク者ア
リ、總會廳ノ門ヲ守リシ一老夫アリ、喜悅ノ餘リ
ニ死シケルトゾ、府民相集リテ、ワシントニ、ラハ
エトト、ロキムボウ三將ノ功ヲ、贊稱スルヨリ外、
更ニ談話ヲ為ス者無リキ、總會乃チ最上ノ官位
ヲ、三將ニ授ケ、十二月三十日ヲ、米國一般ノ禮拜
日ト定メケルニゾ、此日諸民大ニ神ニ謝セリ、
第六十六章ノ問目

北口一將ドナルニ、如何、彼ハ何レ
新ノ州ヲ何ニ在ル州ニ進ミ、如何、ヨルクタ
十ニ及ビ、如何、如何セシヤ、其
ノ圍ミハ、如何、攻撃ノ始末ヲ語レ、コルニ
トシ、如何、逃脫ノ策ヲ語レ、降服ヲ語レ、英
軍ノ喪失ハ、如何、諸民捷報ヲ得テ、如何、
ラゲルモア府ニ於テ、如何、總會ノ處分ハ如
何、
第六十七章 獨立戦争 其二
和親ノ條約○戦争ノ餘弊○合衆國ノ負

合衆國ノ史 卷之三 六九

債及ビ憲法、
 英國ノ人民、今ハ米國ト兵ヲ構フルトテ更ニ望
 マズ、是ニ由テ、政府速カニ決議シテ、兵ヲ息メ、千
 七百八十二年ノ末ニ、英國及ビ合衆國ノ委員、佛
 國ノ都府巴里斯ニ會ヒ、明年一月、和議ヲ講ビ、條
 約ヲ定ム、九月三日、英國我合衆國ノ獨立ヲ許シ
 リ、
 十一月三日、ワシントン、ニウヨルク府ニ於テ、兵
 隊ヲ解キ、其士卒等ニ、離別ヲ告ク、同月ノ末、英軍
 此府ヲ發シテ、歸帆ス、十二月二十三日、ワシント

總會ニ出テ、總都督ノ任ヲ還ス、是ニ於テ、合衆
 國ノ確然獨立スルヲ得タル所ノ戰爭終ル、コ
 レ一個ノ顯赫ナル戰爭ニシテ、全ク獨立ヲ得ル
 ガ為メナリキ、
 蓋シ戦争ハ、必ス弊害ヲ殘ス者ナリ、此役ノ後モ、
 諸民多クハ、其餘弊ヲ受ク、兵卒ノ活潑ナル風習
 常ト為リ、勉勵シテ、着實ニ其業ヲ營ムル能ハズ、
 エハ椅子、或ハ鋤砧ニテ、細工スルヲ嫌ヒ、農ハ、
 野ニ出テ耕スルヲ厭ヘリ、又其後總會ニ於テ、學
 校ヲ維持スルヲ得ズ、因テ、多クハ、閉校スルニ

合衆國小史 卷之三

至レリ、又宗教モ、大ニ衰微シテ、諸民前日ノ如ク、寺院ニ往テ、説教ヲ聽カズ、公然ト、真神宗教ヲ誹謗セシ書ヲ讀メリ、コレ皆弊害ノ甚タシキ者ナリ、然レモ、弊害竟ニ洗除セラル、此ハ此戦争ノ餘烈、恐クハ万世不朽トナラン、之ヲ知ラハ、豈ニ愉快ナラズヤ、

戦争終テ、政府ノ債、四千万弗、其内八百万弗ハ、外國ヨリ借ル所ナリ、合衆國ノ諸州、各其負フ所ヲ還償スル力無ク、既ニマスサキセツ州ニ於テハ、重税ヲ課セシニ由テ、シエーラスト云者、謀叛ヲ起

セリ、政府忽チ之ヲ討平然ル、國難ハ終リ、既ニ國平穩ニ復スルニ及テ、諸民ハ、先ニ創建シ、戦時ニ於テ適應ナリシ政府ヲ目シテ、平時ニ用ニ中ラズト為シ、千七百八十七年、諸州ノ委員、アレナボリテ、ニ集會シテ、古来ノ封建政躰ニ擬スルカ、將テ更ニ新ナル政躰ヲ立ルカヲ議シ、速カニ、後ノ者ヲ立ル下ニ決シ、反覆討論ヲ經テ、國憲ヲ制定シテ、之ヲ各州ニ示ス、各州乃チ之ヲ承諾セリ、千七百八十九年三月三日ゼオルシ、ワシントンヲ推テ、大統領ニ任シ、シヨニアダムスヲ舉

合衆國小史 卷之三 十一

テ副統領トナス、四月三十日、ワシントン始テ政ヲ行ヘリ、

第六十七章ノ問目

今ハ、英國政府、何ヲ決議セシヤ、
巴里斯ニ於テ何事ヲ行ヒシヤ、
千七百八十三年一月ハ、如何、
其九月ハ、如何、
米軍ハ、如何、
英軍ハ、如何、
十二月ワシントンハ、如何、
戦争ニ由テ、何ヲ生ゼシヤ、
人民ノ風習ハ、如何、
其勉強ハ、如何、
教育ハ、如何、
宗教ハ、如何、
弊害ハ、如何、
戦争ノ餘烈、如何、
國債ハ、幾許ナ

ルヤ、
マスサチセツ州ニ起リシ事ハ、如何、
政府ニ就テ為セシ事ハ、如何、
國憲ハ、如何、
大統領及ビ副統領ハ、誰ゾ、
四月三十日ハ、如何、

小林病翁 校

合衆國小史卷之三終

